

1. 件名：「浜岡原子力発電所3号機及び4号機の地震等に係る新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング(126)、(159)」

2. 日時：令和4年9月7日（水）16時10分～18時20分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者（※：TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：名倉安全規制調整官、佐口主任安全審査官、谷主任安全審査官、鈴木安全審査専門職、西来主任技術研究調査官、馬場係員、松末技術参与、杉野統括技術研究調査官、道口主任技術研究調査官、山下技術研究調査官

中部電力株式会社：原子力本部 原子力土建部 執行役員

中川原子力土建部長 他9名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

- ・ 浜岡原子力発電所 新規制基準適合性審査 指摘事項リスト
- ・ 浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうちプレート間地震の津波評価について（コメント回答）
- ・ 浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうちプレート間地震の津波評価について
- ・ 浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうちプレート間地震の津波評価について（補足説明資料）
- ・ 浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうち歴史記録及び津波堆積物に関する調査について（コメント回答）
- ・ 浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうち歴史記録及び津波堆積物に関する調査について
- ・ 浜岡原子力発電所 基準津波の策定のうち歴史記録及び津波堆積物に関する

る調査について（補足説明資料）

時間	自動文字起こし結果
0:00:02	はい。それでは、浜岡原子力発電所の基準津波の策定のうちのプレート間地震の津波評価、こちらの、前回会合からのコメント回答ヒアリングの1回目、あとはですね。
0:00:17	はい。もし時間があればそのまま津波堆積物の方も引き続き、ヒアリングをしたいと思います。
0:00:24	はい。資料ですけれども今回はヒアリング用にコメント回答そのものの資料と、あとプレート間津波評価の本体ですねこれ全体の所、
0:00:36	のものと、あとは補足説明資料とこの3点ということで、ご説明の方おそらくコメント回答のものをベースになるかと思えますけど。では、中部電力の方から資料の説明をお願いいたします。
0:00:51	はい。中部電力浜野でございます。7月15日の第1061回審査会合のにおきまして、いただきましたコメントについて回答を
0:01:01	作成して参りましたのでご説明をさせていただきたいと思えます。今、鈴木さんからお話あった通りで、コメント回答資料を中心にご説明させていただくという方式を進めさせていただきたいと思えます。
0:01:15	説明時間1回目ですのでちょっと丁寧に説明させていただくということで30分ぐらいのイメージでありますよろしくをお願いいたします。
0:01:25	中部電力の永松です。山岡原子力発電所の基準津波の策定のうちプレート間地震の津波評価について、前回会合のコメント回答のご説明をさせていただきます。
0:01:35	まず3から10ページはこれまでのコメントの一覧、
0:01:39	10ページは前回会合でのコメント一覧表です。
0:01:42	前回会合では四つのコメントがありまして、本日はNo. 14 介護の手法を用いたモデルとの比較。
0:01:49	3番に水加古川の詳細パラメータスタディの自主方法。
0:01:53	ナンバー3、詳細パラメータスタディによる影響の大きいケースの選定方法の三つについて、各コメントの詳細を含め、それぞれの章にて説明いたします。
0:02:03	また一番下のNo.4については、津波の組み合わせにおいて今後説明いたします。
0:02:09	11ページは、本日の説明内容です。
0:02:12	二つ目のマルですが、本コメントの回答資料では、No. 1 コメント回答とNo. 23 コメント回答というわけでご説明いたします。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:22	また下の丸について、本編資料では、プレート間地震の津波評価の全体の中に、コメント回答を反映しております。
0:02:31	12 ページは、コメント回答の概要です。内容は各章にてご説明します。
0:02:37	13 ページは評価の全体像とコメント回答との関係です。
0:02:41	N o. 1 コメントは、検討あげモデルの設定にN o. 23 コメントは、詳細パラメータスタディに関連しており、N O23 コメント高いコメントに伴い、詳細パラメータスタディの評価を変更しています。
0:02:56	14 ページはその変更概要です。
0:02:58	左に前回会合での津波評価の概要を右に、今回の概要を示し、変更した箇所は下線と赤字で示しています。
0:03:08	検討波源モデルの詳細パラメータスタディのうち、パラメータスタディの実施方法について、中央に黄色で示す通り、
0:03:15	No.2 コメント回答に伴い、水位下降側のパラメータスタディでは、ライズタイムの影響と、赤い伝播速度破壊開始点の影響が同程度であること等を踏まえて、
0:03:25	より網羅的な検討を行うこととしました。
0:03:28	また、敷地への影響が最も大きいケースの選定方法について、中央に緑色で示す通り、N o. 3 コメント回答に伴い、
0:03:38	基準断層モデルごとに複数の代表ケースが選定されることも考慮し、また、選定した代表ケースについて、津波は形を比較することにより、敷地への津波影響の代表性を確認することとしました。
0:03:52	15 ページに、これらに伴う評価結果の変更を示します。
0:03:57	変更箇所を緑、紫で示します。
0:04:00	津波評価結果の傾向に大きな違いはなく、右側の今回評価結果では、敷地前面の最大上昇水位は 22.7 メートル、
0:04:10	34 号取水塔の水位低下時間は 13. 六分となりました。
0:04:16	16 ページは目次。
0:04:18	17 ページからはN o. 1 コメント回答、日本海溝の手法を用いたモデルとの比較についてです。
0:04:25	18 ページは検討方針です。
0:04:27	前回会合では、検討波源モデルの波源設定の統制確認として、
0:04:32	日本海溝において検討された手法を用いて設定した日本海溝の津波評価手法モデル①から③の数量分布、地殻変動量分布との比較を行い、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:42	その結果、検討揚げモデル、特に検討波源モデルA、Dの滑り量分布及び地殻変動量分布は、日本海溝の手法を用いたモデルと同程度以上となっていることを確認し、
0:04:55	波源設定の妥当性を確認しました。
0:04:58	これに対して、
0:04:59	検討上げモデルCの妥当性について、さらに説明を加えることというコメントがなされました。
0:05:06	その下、このコメントを踏まえた対応として検討を上げ、モデルCを含め、
0:05:12	検討あげモデルの滑り量分布の設定方法等、波源設定の妥当性に関する説明について、
0:05:18	下の検討方針で改めて検討し、再整理しました。
0:05:23	なお文字色は、青が、南海トラフ緑がMw9クラスの地震、オレンジが日本海溝に関する検討を表しています。
0:05:33	読み上げます。
0:05:35	検討あげモデルの設定にあたり、考慮した内閣府 2012 土木学会 2016 は、
0:05:41	南海トラフ及び国内外の巨大地震に関する最新知見に基づき、
0:05:45	南海トラフの海底地形、構造、地震学的な特徴を考慮した挙手的波源特性が検討されるとともに、
0:05:53	Mw9クラスの地震の分析結果を踏まえた滑り量分布の特性化方法が検討され、それを反映した南海トラフで想定されるMw9クラスの地震の波源設定方法が示されたものです。
0:06:07	そこで、内閣府、土木学会及び当社が設定した検討波源モデルについて、その波源設定方法を相互に比較し、
0:06:17	検討波源モデルCを含めた検討上げモデルが、
0:06:21	内閣府、土木学会を踏まえて、妥当な波源設定方法で設定されることをされていることを再整理しました。
0:06:29	一方、日本海溝において検討された日本海溝の津波評価手法手法は、
0:06:34	日本海溝の海底地形、構造、地震学的な特徴を考慮した業種的波源特性等が検討された日本海溝のMw9クラスの地震の波源設定方法であるため、
0:06:46	その波源設定方法を、南海トラフの検討波源モデルに直接取り込むことはできませんが、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:06:53	内閣府、土木学会と同じく、Mw9クラスの地震の分析結果を踏まえた滑り量分布の特性化方法が検討されています。
0:07:03	そこで、内閣府土木学会の方法を用いて設定した検討波源モデルと、日本海溝の津波評価手法を用いて用いたモデルについて、
0:07:13	滑り量分布の特性化方法及び、それを用いて設定される滑り量分布、地殻変動量分布の特徴を比較することにより、
0:07:22	検討揚げモデルCを含めた検討波源モデルが、日本海溝の津波評価手法を踏まえて、妥当な滑り量分布の特性化方法で設定されていることを確認することとしました。
0:07:35	19ページは検討概要です。
0:07:39	内容は各ページでご説明しますが、
0:07:41	上の箱には、前のページで示した検討方針を再掲しており、その下の検討概要には、上の箱書きに青字、緑字で記載した、
0:07:53	1、内閣府、土木学会を踏まえた波源設定方法の妥当性と、失礼しました。緑字で示した2、日本海溝の津波評価所を踏まえた滑り量分布の特性化方法の妥当性の検討概要を記載しています。
0:08:09	20ページからは、市野内閣府土木学会を踏まえた波源設定方法の妥当性です。
0:08:16	検討方針の2ポツ目ですが、内閣府土木学会及び当社が設定した検討波源モデルについて、その設定方法を相互に比較し、
0:08:26	検討揚げモデルCを含めた検討波源モデルが内閣府土木学会を踏まえて妥当な方法で設定されていることを再整理しました。
0:08:36	21ページで、初めに、内閣府と土木学会の方法を比較しています。
0:08:42	内閣府と土木学会とでは、1の業種的波源特性は同じ設定方法が用いられており、
0:08:49	内閣府モデルと同様、土木学会モデルも、南海トラフの海底地形、
0:08:54	構造、地震学的な特徴に基づく最大クラスの地震の想定となっている一方で、
0:09:00	2の微視的波源特性については、下線で示す部分において、異なる設定方法が用いられているとともに、
0:09:08	3の波源モデルへの衛星範囲についても、
0:09:12	2ポツに伴って、エース設定方法が異なっております。
0:09:17	22ページは、内閣府等検討波源モデルAの比較です。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:09:22	検討上げモデルAは、内閣府の波源設定方法を適用し、敷地への影響の観点から、町を滑り域等の位置を検討したものとなっています。
0:09:32	ここで検討あげモデルAで異なる部分を赤字で記載していき、
0:09:37	町を滑り域等の位置について、痕跡再現モデルを踏まえて設定し、設定して、敷地への影響の観点から、パラメータスタディを実施していること。
0:09:48	敦賀湾内のトラフ軸付近に、町を滑り域の滑り量を設定していることが異なっております。
0:09:55	23 ページは両者の滑り量分布の比較です。
0:09:58	両者の違いは、前のページで説明した通りです。
0:10:02	続いて 24 ページは、土木学会と検討波源モデルCの波源設定方法の比較です。
0:10:09	検討波源モデルCは、土木学会の波源設定方法を適用し、敷地への影響の観点から、町を滑り域等の位置を検討したものとなっております、
0:10:19	右下の赤字部分の通り、町を滑り域の位置が異なるほか、
0:10:24	地震モーメント変化分の調整については、土木学会と同様、全領域の滑り量で調整するもの。
0:10:32	長を滑り域の滑り量が小さくなる場合には、波源領域のみで滑り量を調整することとしています。
0:10:40	具体的には 25 ページから説明します。
0:10:44	土木学会モデルでは、断層モデルへの微視的波源特性の反映した結果の地震モーメントの変化分は、全領域長を滑り域と、滑り及び背景領域が全領域ですが、の滑り量で調整しています。
0:11:01	一方、検討でモデルCでは、26 ページの左の中央、
0:11:07	地震モーメント変化分調整の考え方の通り、M0'の各小断層の地震モーメントの総和とM0、強取的波源特性の設定から算出した、主部断層の地震モーメント等比較して、
0:11:23	M0'が小さい場合には、土木学会 2016 の東側モデルと同じく、割り増しのケースAを全領域の滑り量にかけ合わせて、
0:11:34	M0'がM0と一致するよう、各小断層の滑り量を設定しますが、このモデルCのように、M0'が大きい場合は、割引ケースAを全領域の滑り量にかけ合わせる。
0:11:47	と、長大津利益のA棟の滑り量が小さくなってしまふことから、保守的に割引ケースAを背景領域の滑り量のみかけ合わせて、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:11:58	M0'がM0と一致するよう、各小断層の滑り量を設定しております。
0:12:05	27 ページは、両者の滑り量分布の比較です。
0:12:09	続いて 28 ページは、内閣府土木学会と検討波源モデルDの比較です。
0:12:16	検討揚げモデルDは、内閣府と土木学会で異なる設定方法。内閣府からは、青野町を滑り域の滑り量倍率と面積割合を、
0:12:26	土木学会からは、緑の町を滑り域の深さの設定を組み合わせで適用し、敷地への影響の観点から検討したものと なっています。
0:12:36	29 ページは、内閣府と検討上げモデルDの滑り量分布の比較です。
0:12:41	検討揚げモデルDは、内閣府モデルの滑り量分布に対して、町を滑り域の深さを海溝軸から津波断層域の概ね 3 分の 1 の深さの領域に設定しています。
0:12:54	30 ページは、各モデルの東海地域における滑り量分布を示しています。
0:13:00	内閣府土木学会の滑り量分布の特性化方法の違いを踏まえ、これらの組み合わせを保守的に検討して設定した検討あげモデルは、いずれも南海トラフの特徴に基づく、
0:13:11	最大クラスの地震の想定となっているとともに、敷地への津波影響として支配的である東海地域において、
0:13:19	複数の滑り量分布のパターンを考慮しています。
0:13:23	31 ページは、1 のまとめです。
0:13:27	箱書きの矢印ですが、ここまでの検討から、
0:13:31	検討波源モデルCを踏まえ、含めた検討波源モデルは内閣府土木学会を踏まえて、妥当な波源設定方法で設定されていることを再確認しました。
0:13:42	続いて 32 ページは、2 の日本海溝の津波評価手法を踏まえた滑り量分布の特性化方法の妥当性の検討方針です。
0:13:53	日本海溝の手法は、日本海溝の特徴を考慮した巨視的波源特性等が検討された日本海溝のMw9クラスの地震の波源設定方法であるため、
0:14:03	その方法を、南海トラフの検討波源モデルに直接取り込むことはできませんが、
0:14:09	内閣府土木学会と同じく、
0:14:12	Mw9クラスの地震の分析結果を踏まえた滑り量分布の特性化方法が検討されています。
0:14:19	そこで、内閣土木学会の方法を用いて設定した検討あげモデルと、日本海溝モデルについて、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:14:26	滑り量分布の特性化方法及び、それを用いて設定される滑り量分布、地殻変動量分布の特徴を、敷地への津波影響として支配的である。
0:14:36	東海地域において比較することにより、検討揚げモデルCを含めた検討波源モデルが、
0:14:43	日本外交手法を用い、踏まえて、妥当な滑り量分布の特性化方法で設定されていることを確認することとしました。
0:14:52	33 ページでは、まず検討波源モデルの設定において考慮した、内閣府土木学会の特性化方法と、
0:15:00	日本海溝モデルの特性化方法を比較しました。
0:15:04	その結果、津波評価に影響の大きい町を滑り域の特性化方法について、日本海溝モデル①の方法は、土木学会の方法と同じであることを確認しました。
0:15:16	また日本海溝モデル②③の方法は、日本海溝モデル②は3倍滑り域のない方法、日本海溝モデル③は3倍滑り域のある方法ではあるものの、
0:15:28	基本的には、内閣府の方法と同じであることを確認しました。
0:15:33	34 ページは、検討波源モデルの特性化方法との比較です。
0:15:38	町を滑り域の特性化方法について検討あげモデルと、日本海溝モデルとの対応を確認すると。
0:15:45	緑で示す土木学会の方法と同じ、日本海溝モデル①の特性化方法は、土木学会の方法を適用した。
0:15:54	検討波源モデルC Dにおいて考慮されています。
0:15:58	青で示す内閣の方法と同じに本会合モデル②③の特性化方法は、
0:16:05	内閣府の方法を適用した検討波源モデルA、Dにおいて考慮されています。
0:16:12	35 ページは、滑り量分布の特徴の比較です。
0:16:17	土木学会と同じ町を滑り域の特性化方法が用いられた日本海溝モデル、ある市は、
0:16:23	履行期方向に幅広い町を滑り域の滑り量が設定されています。
0:16:28	この特徴は、土木学会の方法を適用した検討波源モデルC Dにおいて考慮されています。
0:16:35	なお、日本海溝モデル①の長を滑り域の滑り量は、
0:16:40	検討揚げモデルC よりも大きく、検討波源モデルD よりも小さくなっています。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:16:46	36 ページは、東海地域における地殻変動量分布の特徴をコンターと断面分布で比較したものです。
0:16:55	断面図を見ていただくと、土木学会と同じ町を滑り域の特性化方法が用いられた日本海溝モデル①は、
0:17:03	履行期方向に幅広い地殻変動が発生しており、この特徴は、土木学会の方法を適用した検討を挙げモデルC、Dにおいて考慮されています。
0:17:14	また内閣府と同じ町を滑り域の特性化方法が用いられた日本海溝モデル②③は、トラフ軸付近で特に大きな地殻変動が発生しており、
0:17:26	この特徴は、内閣府の方法を適用した検討波源モデルA、Dにおいて考慮されています。
0:17:34	37 ページは2 のまとめです。
0:17:37	ここまでの検討から検討上げモデルCを含め、内閣府、土木学会の特性化方法を用いて設定した検討波源モデルは、
0:17:46	日本海溝モデルを踏まえても妥当な滑り量分布の特性化方法で設定されていることを確認しました。
0:17:53	また下の箱に記載の通り、日本海溝において検討された8日移行モデルは、日本海溝の特徴が考慮された日本海溝のMw9クラスの地震の波源設定方法によるモデルであるため、
0:18:07	その方法を、南海トラフの検討あげモデルに直接取り込むことはできませんが、
0:18:12	日本海溝モデルの影響確認として、
0:18:15	日本海溝の概略パラメータ、日本海溝モデルの概略パラメータスタディを実施し、その結果、
0:18:22	検討あげモデルによる津波評価結果で代表できることも確認しております。
0:18:27	この内容については、38 ページから示してございます。
0:18:32	箱書きの2 ポツ目ですが、
0:18:35	本検討では、比較のため、動的パラメータの条件は、検討あげモデルの概略パラメータスタディの条件と同じ。
0:18:42	ライズタイム 150 秒同時破壊として検討をしました。
0:18:46	また参考として、日本海溝モデルの概略パラメータスタディの結果、敷地への影響の大きい滑り域の位置について、ライズタイム 60 秒同時破壊とした検討も実施しました。
0:19:00	39 ページには各モデルの断層パラメータ。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:19:05	40 から 42 ページは、各モデルのパラメータスタディ結果。
0:19:10	43、44 ページは、各モデルのパラメータスタディ結果の最大値と、検討波源モデルの概略パラスタにおける最大値との比較を示しております、
0:19:21	日本海溝モデルの津波評価結果は、検討波源モデルの概略パラメータスタディの津波評価結果を下回り、
0:19:29	検討波源モデルの津波評価結果が、より保守的な津波評価となっていることを確認しました。
0:19:36	45 ページは No. 1 コメント回答のまとめ。
0:19:41	46 から 50 ページは、各モデルの波源設定方法の詳細となっております。
0:19:47	続いて、51 ページからは、
0:19:50	ナンバー2、3 コメント回答です。
0:19:53	52 ページは、
0:19:55	詳細パラメータスタディ概要とコメント回答との関係でして、
0:19:59	パラメータスタディの実施方法について、
0:20:02	No.2 コメント回答に伴い、敷地への影響が最も大きいケースの選定について、
0:20:08	3 番 3 コメント回答に伴い、表、A 評価を変更しています。
0:20:13	評価結果の変更に関しては、53 ページ、53 ページは、前回会合でお示しした詳細パラメータスタディの結果、
0:20:23	54 ページは、今回の結果を示しています。
0:20:26	変更点を紫で示しております通り、No.2 コメントに回答に伴い、
0:20:32	水位下降側における取水等に影響の大きいケースを変更しました。
0:20:37	また、No. 3 コメント回答に伴い、
0:20:40	水位上昇側における取水層に影響の大きいケースを追加しました。
0:20:47	55 ページからは、No.2 コメント回答について説明します。
0:20:52	56 ページは検討概要です。
0:20:55	前回会合での説明では、詳細パラメータスタディの実施方法について、各パラメータが津波評価に与える影響を考慮して、水位上昇側下降側とも、
0:21:06	初めにライズタイムの不確かさを考慮したパラメータスタディを実施し、次に破壊伝播速度及び破壊開始点の不確かさを考慮したパラメータスタディを実施していました。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:21:16	これに対して、水位下降側の詳細パラメータスタディについては、
0:21:20	各パラメータが水位低下時間に与える影響を分析し、各パラメータによる影響の大きさを考慮したパラメータスタディが実施できているかどうかを説明することというコメントを受けています。
0:21:33	今回のコメント回答ですが、
0:21:36	水位下降側のパラメータスタディでは、ライズタイムの影響と破壊伝播速度破壊開始点の影響が同程度であること等を踏まえて、より網羅的な検討を行うこととし、
0:21:48	右側の表に示すよ、表のように、ライズタイムの不確かさを考慮したパラメータスタディにおいて影響の大きい複数のケースについて、さらに破壊伝播速度及び破壊開始点の不確かさを考慮した。
0:22:01	パラメータスタディを実施しました。
0:22:05	57 ページは、水位下降側の 34 号取水塔への影響が大きい。
0:22:11	基準断層モデル 2-3 の概略及び詳細パラメータスタディの因子がついていた時間に与える影響を分析したものです。
0:22:20	3 ポツ目ですが、
0:22:22	中央のライズタイムの影響と、右の破壊伝播速度破壊開始点の影響は同程度であるとともに、
0:22:29	ライズタイムが水位低下時間に与える影響と、破壊伝播速度、破壊開始点が水位低下時間に与える影響との関係が独立かどうかということが明確ではないことから、
0:22:41	水位下降側のパラメータスタディの順序によって選定されるケースが変わる可能性も考慮して、
0:22:47	より網羅的な検討を行うこととし、
0:22:50	ライズタイムの不確かさを考慮したパラメータスタディにおいて、
0:22:54	影響の大きい複数のケースについて、さらに破壊伝播速度及び破壊開始点の不確かさを考慮したパラメータスタディを実施しました。
0:23:03	一方、58 ページは、水位上昇側の敷地前面の同様の分析です。
0:23:10	水位上昇側については、ライズタイムの影響は、破壊伝播速度破壊開始点の影響よりも大きいとともに、ライズタイムが非短いほど津波水位が大きくなる関係は、
0:23:21	破壊伝播速度は借換支店によらないことから、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:23:24	水位上昇側のパラメータスタディの順序によって選定されるケースが変わることはなく、敷地に最も大きい影響の大きいケースを選定できていると評価しています。
0:23:36	59 ページは、取水槽への同様の分析です。
0:23:40	取水槽については、ライズタイムの影響と破壊伝播速度破壊開始点の影響は同程度ですが、
0:23:47	これまで説明してきた通り、ライズタイムが短いほど津波水位が大きくなる関係は、破壊伝播速度は買い替えしてミウラないことから、
0:23:56	水位上昇側のパラメータスタディの順序によって選定されるケースが変わることはなく、敷地に最も影響の大きいケースを選定できていると評価しました。
0:24:07	60 ページには水位下降側のライズタイムのパラメータスタディにおいて、影響の大きい複数のケースについて、さらに破壊伝播速度及び破壊開始点のパラメータスタディを実施した結果を、
0:24:19	基準断層モデルごとに整理して示しています。
0:24:23	前回の結果は、薄い青のバーで、
0:24:26	今回の最大帳票に太字で示しております。
0:24:31	今回より網羅的に検討した結果、
0:24:34	一部の基準断層モデルにおいて選定されるケースが変更となりましたが、
0:24:39	ライズタイムの辺違いによって、破壊伝播速度、破壊開始点のパラメータスタディ結果は大きく変わらないことを確認しました。
0:24:47	なお全ケースの結果については、本編資料に掲載してございます。
0:24:53	続いて 61 ページからは No. 3 コメント回答についてご説明します。
0:24:58	62 ページは検討方針です。
0:25:00	展開 5 では、詳細パラメータスタディにおいて、敷地への影響が最も大きいケースの選定に関する方針、プロセス根拠を十分説明することというコメントを受けておまして、
0:25:12	今回、影響が最も大きいケースの選定に関する方針プロセス、根拠を整理して記載するとともに、
0:25:19	より適切で説明性の高い選定方法となるよう選定に関するプロセスの変更追加を行いました。
0:25:27	63 ページは、今回整理しました、敷地への影響が最も大きいケースの選定方針です。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:25:34	詳細パラメータスタディにおける敷地への影響が最も大きいケースの選定は、
0:25:39	基準断層モデルごとに、
0:25:41	基準、津波影響が異なることを踏まえて、まず上の四角で、基準断層モデルごとに影響が大きいケース、代表ケースを選定した上で、
0:25:52	次に、下の四角で、全評価結果の中で、営業が最も大きいケースを選定することとしています。
0:25:59	また津波評価では、小数第1に引き上げて保守的に津波高を評価することを踏まえて、代表ケースの選定では、左上の表に示す基準断層モデルごとに影響の大きい評価地点に着目して、
0:26:14	小数第1までの津波高等から、
0:26:17	黄色の四角で示す方法により選定しています。
0:26:21	まず、(1)、小数第1までの津波高等から、
0:26:25	各基準断層モデルの検討ケースの中で、着目する各評価地点における最大値、評価結果の表中では赤字で示してまず数値、
0:26:36	を持つケースを抽出しています。
0:26:38	次に、(2)抽出したケースについて、
0:26:42	小数第1までのその目津波高等を比較し、良いか、もしくは、右側にイメージで示すように、①もしくは②に該当するケースを代表ケースとして選定しています。
0:26:56	①の着目するすべての評価視点において、津波高等の最大値を持つケースは、右側のイメージの通り、着目するすべての評価時点で赤字となっているケースです。
0:27:08	新野着目するすべての評価地点における津波高等の最大値を網羅するケースの組み合わせは、
0:27:15	①が存在しない場合に着目するすべての評価地点で赤字となるケースの組み合わせです。
0:27:22	この①②に該当するケースが複数ある場合に限り、さらに小さい桁を比較して再度①②に該当するケースを選定いたします。
0:27:33	最後に(3)として、(2)により選定した代表ケースについて、(1)で抽出したケースと、津波は形を比較し、異なる傾向を有するケースがないかを確認することにより、
0:27:45	津波影響の代表性を確認しました。
0:27:49	64ページには、コメント回答に伴う選定方法の変更を整理しました。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:55	まず黄色の四角に示すように、前回までは、基準断層モデルごとに一つの代表ケースを選定する条件としていましたが、
0:28:03	今回、より適切な選定方法となるよう、基準断層モデルごとに、必要に応じて複数の代表ケースを選定することも考慮した条件としています。
0:28:13	また、緑の箱に示すように、より説明性の高い選定方法となるよう、
0:28:18	選定された代表ケースについて、津波は形を比較することにより、
0:28:22	敷地への津波影響の代表性を確認することとしました。
0:28:27	65 ページには、前回説明における選定を示しています。
0:28:32	右の表の破壊伝播速度、破壊開始点の不確かさ考慮の結果、小数第 1 まで最大値となるケースを赤字で示しています。
0:28:41	このうちすべての取水槽で、小数第一位までの津波高が赤字となったケースが、0.7メートル毎秒P6のケースと、
0:28:51	1.0メートル毎秒P6のケースの2ケースあったため、両ケースについて、小数第2位を確認しています。
0:29:00	その結果、1から4号取水槽では、A、
0:29:03	以下のケースが午後、
0:29:06	下のケースが、すみません、下のケースが5号取水槽では、上のケースが大きくなっていますが、
0:29:12	いずれのケースも、基準断層モデル3-2の津波評価結果よりも小さく、
0:29:17	どちらを選んでも、最終的な評価には影響しないということから抜粋するケースについては、このうちの一方のケースとしていました。
0:29:27	これに対して今回、66ページの今回説明では、これらの二つのケースについて、着目するすべての評価地点における津波高の最大値を網羅するケースの組み合わせとして、
0:29:40	両方を選定することとしています。
0:29:43	67ページは、今回追加しました時刻歴は形の比較です。
0:29:48	詳細パラメータスタディの結果、1から5号取水槽水の最大値が同値となる複数のケースについて、
0:29:55	これらの水位の時刻歴は形を比較した結果、
0:29:59	代表ケースと異なる傾向を有するケースはないことから、選定した代表ケースによって、1から5号取水塔の津波影響を代表できると評価しました。
0:30:10	こちら、全ケースの検討結果は、本編資料に掲載してございます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:30:16	68 ページから 73 ページにまとめを示します。
0:30:20	73 ページですが、
0:30:22	今回の変更により、全計算ケースは約 1400 ケースとなりました。
0:30:28	本編資料についてですが、本日ホームページについては、細かいご説明は控えますけども、4.1、
0:30:37	検討あげモデルの設定の部分について、121 ページから 126 ページに No. 1 コメント回答を反映しております。
0:30:49	はい。
0:30:53	失礼しました。
0:30:59	すいませんちょっと急ぎ過ぎてしまいましたけども本編資料については、4.1 の検討あげモデルの設定の部分について、121 ページから 126 ページに No. 1 コメント回答を反映してございます。
0:31:17	また、詳細パラメータスタディの方については、153 ページと 154 ページに、
0:31:24	ナンバー2、3 のコメント回答を踏まえた追加修正をしてございますとともに、
0:31:31	163 から 194 ページにすべての結果を示してございます。
0:31:38	また、まとめページにも、これらの内容を反映してございます。
0:31:45	本編資料については以上でございまして、続いて、補足説明資料についてですけども、
0:31:52	前回会合でご説明した松原の知見や、6000 年前地形を模擬した津波計算の資料を入れ込むなどをしてございます。こちらも、本日説明は割愛させていただきます。
0:32:05	本日のプレート間地震の津波評価に関するご説明は以上です。
0:32:15	はい。説明の方ありがとうございます。そうすると、コメントが三つあるので、その一つ一つについて順番にということで、
0:32:28	進めたいと思うんですけども。
0:32:30	ちょっとコメン等の該当位置ですねもともとの敵は日本海溝のモデルとの比較でそこに検討波源モデルCの妥当性について、
0:32:42	触れられていないのでその説明を加えてくださいという、そういうものだったんですけども、
0:32:49	今回のコメント回答の方を見ると、内閣府 2012 土木学会 2016、それとの比較から、もう一度何か立ち返って説明をしているようにも見えるんですけど、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:33:04	これ内閣府 2012 土木学会 2016 を踏まえて、この A 氏、C D のモデルがこのように妥当に設定されております。
0:33:14	いうのは、ここは変えてないんですよ中身としては、これまで前回の会合だとどうしてもコメント回答で、内閣府モデル、2012 との比較の、
0:33:26	部分と、日本海溝を日本介護して、日本介護ですね日本海溝の方のコメント回答って、多分項目が別々に分かれていて、日本海溝の方の、
0:33:37	①②③と、検討波源モデル A C D との比較っていうところで別項立てでコメント回答してしまったので、そこを一気通貫で説明した方が、
0:33:49	検討あげモデル C の妥当性が説明しやすいので、ひとまとめにしましたというご説明を、
0:33:56	したいのかなと思って、すいません読んでいたんですけども。
0:33:59	まず先ほど申し上げた内閣府 2012 土木学会 2016 を踏まえた波源設定方法の妥当性の部分は、
0:34:07	これはこれまでの説明とは当然変わってないんですかね、特にコメント回答を見ると右肩に、第何回位審査会合一部修正とかそういう書き方ではないので、
0:34:19	一応今回のコメント回答のために、作ったページだと思うんですけど、
0:34:28	はい、中部電力の森です。ご理解の通りで、内閣府土木学会との比較の部分については、我々としてこれまで説明してきたことを、再度整理させていただいたと。
0:34:39	というような位置付けでございます。
0:34:42	で、審査会合の中で前回の審査会合で内閣府と検討波源モデル A の比較というのはしっかりお示しさせていただいたんですけども、
0:34:52	土木学会と検討波源モデル C の比較というのを、あんまり
0:34:57	滑りの分布のところまで比較してお示ししたことがこれまでなかったこともあって、その違いというのがどういうところかというところサグチさんからもご指摘受けたところもありましたので、
0:35:08	まずそのコマへと大きなモデル設定の方法については同じようにし、妥当な内閣府と土木学会を踏まえて妥当な設定になっていると。
0:35:18	いうことを示させていただくのとあわせて、細かい設定の違いなんかについても見えるようにさせていただいたというところでございます。以上です。
0:35:33	はい、わかりました。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:35:35	で、あと内閣府 2012 との関係と、前回の会合で 12 月の会を当時だと、藤管理官の当時の管理課の浅田からのコメント、
0:35:48	それで、何とか最後の津波の水位の比較ではなくて、どういうどういうそのパラメーター等の段階で影響してくるのかをってことで、すみませんちょっと前回の 7 月の会合だと、
0:36:03	何ページだと。
0:36:05	前回の 7 月の会合で、はい。説明コメント回答して、その説明わかりましたと言った部分が、
0:36:12	今回、どの、どこに最後組み込まれたのかなっていうのをちょっと確認したいんですけど。
0:36:18	すみませんちょっとパッと前回の会合何ページだったかとすぐ出てこないんですが、
0:36:30	はい、中部電力の方です今回だと本編資料の方の、5 章の方に、
0:36:37	はい。
0:36:38	ています例えば 219 ページとか、そういうところの、
0:36:44	資料。
0:36:46	でしょうか。すみませんこれですこれはい。すみません確認できましたありがとうございますじゃこれはこのまま。
0:36:52	本編の方には、残しますということで、
0:36:56	日本外交との比較は、
0:37:00	前回は考察としては、検討はモデル A と D のところ、との比較は、割と書いてあったんですけど、C のところの記載がありませんねっていうのは、
0:37:12	今回、特に滑り量の分布は 3435 島トラフ軸からの距離っていうのもお示しいただいて、36 で地殻変動量の分布ということで、
0:37:26	これは檀比嘉左側の
0:37:30	赤とかピンクで塗ってある左側のそれぞれの左側の図、
0:37:37	これは、
0:37:39	主に検討波源モデル C と D で、
0:37:45	割と軸から離れたところもう、濃い
0:37:49	行なっていかマーカーが濃くなって、これは日本海溝の種の手法モデル 1 でこれは検討薄片モデル C と D で左側の
0:37:59	下部変動の図の方はですね。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:38:01	カバーできていて、グラフの方は、日本海溝の手法のモデル1だと、トラフ軸側のところ地殻変動量としては、10、
0:38:13	12メートルに届くか届かないかぐらいが、
0:38:16	8%で、
0:38:18	これは検討波源モデルCの方はこれ広域の影響を
0:38:24	ある程度し、意識してるの年ながら地殻変動量のトップの部分ですねこれは、
0:38:31	検討波源モデルCではそこまでは達してませんが、これは検討波源モデルDの方で、Upper多分12メートル越えて13メートルぐらいなので、
0:38:41	ここは右側の方はですね、カバーできていると。
0:38:46	下方県日本海の②③の方はこれはどちらかというと、
0:38:53	左側このピンクというか赤のこの図ではなくて地殻変動量の右側のグラフですかね、このそのものを見てこれを、
0:39:01	検討はモデルAとDと比較して、
0:39:03	きちんとカバーでき、できてますよ。
0:39:06	こういう御説明かなと思ったんですけど。
0:39:10	すいませんそれぞれ断面を切っているものと、地殻変動力のグラフです。
0:39:15	示してるものとの対比の仕方、その理解としては、といたしますかね、ちょっとすみません
0:39:21	画面を示しながらではないので、口頭なので、
0:39:24	私がどういう比較をしてるかっていうのが見づらい、わかりづらいかもしれませんが、
0:39:30	はい。中部電力の盛です。ご確認いただきたい事項について理解できております。で、今回まず、少しちょっと直接ご回答する前に検討方針のところを再度、構造ご説明させていただきたいんですけども、18ページ。
0:39:48	のところで、
0:39:56	今回、Cだけではなくて、改めて検討波源モデルAからDのモデルの妥当性をどういうふうに担保しているのかというところを整理させていただきました。で、
0:40:07	これまでご説明させていただいてる

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:40:10	下の四角の検討方針というふうに書いてあるところの一つ目の四角の部分、
0:40:16	我々の弊社の検討波源モデルについては、内閣府とか、土木学会の南海トラフで検討されたM9クラスのモデルに、そに基づいて設定をしておりますので、
0:40:28	そことの対比というところで、波源設定としては妥当なものを使っているんだということを改めて整理させていただいたというのがまず一つ目でございます。衛藤四角の二つ目の方で、日本海溝モデルとの比較というのをやっております。
0:40:43	こちら黄色で書いています通り、日本海溝のH、特徴を考慮したモデルなので、これまでも審査会合でもいろいろ、
0:40:53	ご議論させていただいておりましたけれどもどういうふうに南海トラフに持ってくるのかっていうのがなかなか難しく、議論をさせていただいた結果を踏まえて今、先ほど見ていただいたような日本海溝モデル①から③というのを設定して、
0:41:06	おります。で、その中で、検討波源モデルして取り込むのか取り込まないかというところも議論させていただいた上で、取り込むということではなくて、それによって設定される。
0:41:18	滑り量分布だとか、地殻変動の傾向が、
0:41:22	同じようになっているのかどうかという観点で比較をするべきだと、津波高というよりは滑り分布の傾向だとか地殻変動の傾向が同じかというところで分析するべきだということも、
0:41:34	ご指摘、ご示唆いただいておりますので、そこを踏まえて、改めて今回整理したというのがこの2ポツ目でございます。
0:41:42	で、
0:41:43	先ほど鈴木さんおっしゃられたようなところも我々としては考えているんですけども、なかなか日本海溝のモデル絶対値同士を比較するってのは少し難しいのかなというのも思っていて、それよりは
0:41:57	ここの2ポツ目の緑で書いたような、特性化方法については、M9クラスの自治権を踏まえて、
0:42:07	1ポツ目の方の内閣府に土木学会でも検討されていますし、2ポツ目の方の、日本海溝のモデルでも検討されているというところで、ここは国内外の知見を踏まえて比較できるところだと。
0:42:20	いうことを整理しております。なので、矢印以降ですけども、ちょっと、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:42:28	緑字の前になってしまいますけれども滑り量分布の特性化方法と、それを用いて設定される滑り量分布地殻変動の特徴というのを比較するべきだろうということで、ここの比較をどこですかというのを明確にさしていただきました。
0:42:43	その観点から、先ほどのご指摘いただいた
0:42:50	地殻変動量分布の絵と断面図。
0:42:54	に戻っていただきまして、36 ページですねすみません。
0:43:06	この緑同士、赤、青、青同士というか、右側に日本海溝のモデル、左側に検討波源モデルの並べているんですけども、
0:43:17	それぞれ緑は、土木学会の知見が反映されているような、と同じ、同じ特性化方法で設置されているところ。
0:43:27	案は、内閣府と同じ
0:43:32	滑り量分布の特性化方法が反映されてるところになります。当社の方で少し特殊なのはDがどっちも組み合わせてやってるところもあるのでDは、青と緑とどちらもかぶせているというところがございます。
0:43:46	このあたり色分けで、どういう内容なのかというところも、わかるようにしております、A Bというところで、滑り量と面積の割合、
0:43:56	もしくはBの潮汐の深さというのがどっちの知見を使っているのかと同じ知見を使っているのかというところを整理させていただきました。
0:44:04	で、細かい滑り量分布の絶対値なんかは、それぞれ設定が内閣土木学会のものと、日本海溝側のモデル等で違いますので、
0:44:16	細かい、絶対値を比べるということにはできないと思っております、滑り量分布ここと言えば、地殻変動の特徴自体は、
0:44:26	同じ知見を使う、同じようなモデル設定になっていますので、先ほど鈴木さんおっしゃられた通り、右上側の、
0:44:35	土木学会の手法と、を使ったような日本海溝モデル内の地殻変動量分布の傾向が、右下のC Dの方には反映されていると。
0:44:46	どちらかという、Aは
0:44:49	2 ポツ 2 ポツ目で書いたようなその履行期方向に幅広い地殻変動量が発生しているというような傾向が、検討波源モデルC Dの方で考慮できていると。
0:44:59	いうこと。
0:45:00	と、右下②③のトラフ軸付近で

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:45:07	特に大きい地殻変動が発生しているという特徴、傾向については、同じく内閣府の4倍域というのを考慮してます。
0:45:16	検討波源もエリアBでできていると、というような傾向の比較というのを、今回してきたつもりでございます。で、
0:45:27	妥当性としては、同じような傾向が
0:45:32	ほぼ、検討波源モデルの中で考慮できているということを今回は整理させていただいた上で、
0:45:39	38ページ、37ページですかね、
0:45:44	とはいえ
0:45:46	日本海溝のモデルで、松波。
0:45:50	高としてどうなるのかということもやはり、
0:45:53	そういう比較ではないということもご指摘いただいたところもありますけどもやはり事業者としては必要かなということで影響確認としまして、日本海溝のモデルの
0:46:03	概略パラメータスタディを実施した上でその影響が今の検討波源モデルに包絡フォールスされているということも、確認させていただいているというような構成で今回、再構成させていただいたという、
0:46:16	ところです。すいませんちょっと少し長くなりましたが以上です。
0:46:23	はい、ありがとうございましたそうするとこの地殻変動量分布なんで比較変動。
0:46:28	量そのもので庄野Upperではなくて、そこに来る妥当性のクリテリアを置いてるわけではなくて、やっぱり全体の傾向或いはがですね。はい。そこで比較しておると。
0:46:40	いうお考えですねわかりましたありがとうございます。で、少し先のところに今説明あって、
0:46:48	とはいえ日本海溝の手法も、一応その概略パラメータ詳細パラメータ一、準じたような評価をして、
0:46:58	一応その最後の数字というところも、比較をされたということで、
0:47:03	で、38ページ以降は一応補足というふうに書いてあって、これはおそらく12月の前回のときにも言いましたけど、マリーナが最後の津波のですね、高さが、
0:47:15	どちらが高いので、波源モデルAとDの方が日本海溝、最後に津波の数値が高いからいいんだという、そこではないよねっていうところは、これも去年12月の会合でも、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:47:28	出町委員会も、あそこも含めて言ってるので、やっぱり位置付けとしては補足で、一応そこは念のために事業者の方としても確認しましたという、いう流れでご説明なので、左方にすべて補足というふうに書かれているかというふうに理解してます。
0:47:43	はい。
0:47:44	そうするとですね。では、すいません、私が一通りしゃべってしまいましたけど、コメントNo. 1の方で、
0:47:56	他何か確認しておく。
0:47:58	いう点は、
0:48:00	あの人ありますでしょうか。
0:48:11	はい。では、コメントのナンバーの、
0:48:18	2番、3番の方に行きたいと思います。一応コメント回答の2の方で先にシュシュテイカ側と、
0:48:25	いうことで説明をされていて、
0:48:30	ちょっとね、
0:48:33	ちょっと最終的に基準断層モデルは、幾つか増えましたという話は、
0:48:40	最後にするとして、一応前回の会合の方でそうですね下降側の方は、ライズタイムの不確かさを考慮して、
0:48:50	そのライズタイムで一番影響の大きいものだけをやっていたのを、
0:48:54	概略パラメータの方でもう少しやってみましたけれども少し前後のですね、
0:49:01	ライズタイムですかね、添付の方も少し拾ってやってみましたと。
0:49:07	一応最後結果的にワーA少しだけ敷衍対経過時間増えましたけど、多分
0:49:17	しも蓋桁で3秒ぐらいっていうぐらいなので、おおよそそのUpperの影響はないのかなと数字から見ればそうなんですけど、
0:49:27	なので、おおよそ、
0:49:30	傾向としては見れたかなとは思いますが、
0:49:35	他方で、
0:49:37	57ページかな。
0:49:45	このところでやっぱり依然として
0:49:49	箱、
0:49:50	ですかね考察考察交差点の概略パラメータと詳細パラメータの方書いてありますけれども、
0:49:56	この読み方として、破壊伝播速度破壊開始点のところで、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:50:01	破壊伝播速度が
0:50:04	1.0 と 0.7 のところでかくっと下がったりですね、破壊開始点の 1 と 6 で綱領は秒たんでその上がってる。これは、
0:50:13	水位上昇側とかですねそちらの方の影響。
0:50:17	例えば滑り域の位置とか概略パラメータスタディの大きな差が出てますけど、
0:50:23	その影響と比べれば確かにその有意な傾向が認められないということだとは思いますが、
0:50:28	他方で
0:50:31	この水位下降側の詳細パラメータスタディのライズタイムのですね、ほぼ横一辺倒なんてものとの差で、
0:50:39	ここは違いがあるようにも見えますがっていうのは多分前回の会合で言ったと思うんですけど、
0:50:45	破壊伝播速度が 0.1, 0 と 0.7 でかくっと下がってしまってるけど、これ最大値、
0:50:53	それぞれこれ多分平均でとってるから下がっていて最大値同士ではあんまり変わらないんじゃないでしょうかっていう話も、
0:50:59	ちょっとしたような気もするんですがそこまで細かくはよく見てなかったんですけど、この辺は結局、
0:51:06	前回と同じく、ここはやっぱり差はないっていう、差はないけれども、
0:51:14	一応ライズタイム前後のものまで比較しましたなんで差がないのかっていう説明もなかなかはっきりとはできないので、少しライズタイム幅広く取りました。
0:51:25	そういうことなんですかね、これ。
0:51:33	はい。中部電力の盛です。
0:51:36	ご指摘のご指摘、おっしゃる通り下側の分析の数 g の取り方というか、自体は前回審査会合から変えておりませんで、
0:51:46	上の箱書きを少し丁寧にさせていただいて今、鈴木さんがおっしゃられた通りで 2 ポツ目のところでまず滑り域の位置の影響というのが支配的だということを確認したと。
0:51:58	ということと、3 ポツ目とライズタイムと、破壊伝播速度破壊開始点の影響というのは、
0:52:05	今の数字、最後の加来っていうところも入れてしまうと、破壊伝播速度破壊開始点の方が大きいと、デジタルデジタルとか書いてある数字とし

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	ては大きいということもありますけれども、傾向としては同程度なのかなというふうに、来年1名、
0:52:19	いずれも1メートル程度ということ同程度なのかなというふうに考えております。
0:52:23	で、そのときに、どこから、
0:52:27	パラメータスタディを始めるのかというところについてご指摘いただいたものというふうに認識しております、これを破壊伝播速度からパラスターを始めるという、
0:52:38	よりはちょっとそれは堂々めぐりになってしまいますので、ライズタイムと破壊伝播速度は買い換え支店を今回は、すべてマトリックスで起きそうなところは、数や、計算をして、最大値を見つけてくるというような
0:52:54	を進めさせていただいたというものでございます。
0:53:11	はい。
0:53:12	でですね詳細パラスタの考察の、
0:53:17	ところがそうなんですがやっぱり、
0:53:24	その水位下降側と水位上昇側の取水層ですね。
0:53:28	ことの傾向で、あんまり、
0:53:31	その評価としては変わらないんだけど片やライズタイム少し幅をとって、これはこちらから求めた、確認さしてくれって言って求めたからなんですけど、
0:53:39	いうものと片や取水槽側、当然そのライズタイム幅を振るところまで、こちらとしては求めていなかったの、
0:53:48	やってない。
0:53:50	ベースじゃ片やこっちでやっていて片やこっちでやってないっていう、その差は何ですかというと、
0:53:56	ただ、ライズタイムの考察破壊伝播速度は外海成の考察としては、
0:54:03	どちらも変わらない、変わらないけど片方はやっていた方をやってないその差は何だと。
0:54:08	ところが、ちょっと見えにくいかなと思ってのんですが、
0:54:17	なんで加古川ライズタイムのついて時価時間に与える影響と破壊伝播速度破壊開始点が、下降側に与える影響、この関係が明確ではないので、
0:54:29	少し幅記録やりました。で、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:54:32	取水槽の上昇側は、
0:54:40	ライズタイムが短いほど、
0:54:43	影響、
0:54:49	これは破壊伝播速度破壊返しによらないなどお互いに関係因果関係、関係性はないというのはこれははっきり言えますっていう。
0:54:57	これはどこを見てその読み取ればいいのかっていうのは、ちょっと今ひとつですね。
0:55:01	ピンとこないんですけど。
0:55:06	すいません私だけピンときてないだけかもしれないんですけど、
0:55:11	はい。中部電力の毛利です。これまでの議論のページを少し引用させていただきます、
0:55:18	北井ひもときちょっとさせていただきたいなというふうに思いました。
0:55:23	どうしようかな。
0:55:25	ちょっと補足。
0:55:34	補足説明資料の、ライフタイムの説明のところを少しだけご説明させていただきます。
0:55:42	6、
0:55:50	例えば6の5章の
0:55:56	565ページ。
0:56:00	お開きいただくことはできますでしょうか。補足説明資料の565ページ。
0:56:07	なんですけども、
0:56:20	このインバージョンに基づくライトライズタイムの検討ですか。
0:56:24	はい。すいませんちょっとこの図、いろんなところにあると思いますので、今ちょっとぱっと私が見つけたことをご説明させていただきますけれども、
0:56:33	津波の水位に関しては、
0:56:37	これ、縦軸で
0:56:41	超滑り域の滑り量で、横軸にライズタイムを取ってまして、津波水位の等高線というのを線で引いております。
0:56:51	で、左上に行くほど水位が大きくなるというような図になっておりまして、
0:56:57	左上ですね、等高線が上に上がっていくというふうに見ていただきたいんですけども、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:57:05	この縦軸の滑り量が上に行くほど、ライズタイムが短くなるほど津波水位としては大きくなっていくということをこれまで整理させていただいております。
0:57:16	で、滑り量について小さいのと大きいのと衛藤どっちが津波が大きくなるかというところは多分議論がないかと思うんですけども、ライズタイムについても、基本的に
0:57:28	短くなればなるほど津波水位としては大きくなるということを、これまでご説明させていただいております。
0:57:35	で、
0:57:38	今回先ほどのコメント回答資料の方の 59 ページで記載させていただきましたのは、
0:57:48	鈴木さんが先ほどおっしゃられた通り、
0:57:51	ライズタイムの影響が、今は買い替えして破壊伝播速度から独立で、影響がないということを記載しております、
0:57:59	津波水位に関しては、未熟ライズタイムが短いほど津波水位が大きくなるというような関係自体は、どういう破壊伝播速度破壊会社の設定でもう変わりませんので、彼、
0:58:12	変わらないということをこれまで整理させていただいておりますので、そういう観点から、上昇側については、どういう順番でやっても、
0:58:24	独立なので、今の順番でやっても、十分敷地に最も影響の大きいケースが選ばれ選定できているというふうに考えてます。
0:58:36	グラフを見ていただくとあまり感度がないことはありますけれども、59 ページの真ん中の
0:58:44	敷地前面はそれなりにあるんですけども、取水槽のところも、60 分に行くほどだんだんその津波水位が高くなっていくというような関係については、どういう破壊開始で破壊伝播速度やっても変わりませんので、
0:58:58	この順番でやっても、ライズタイムについては 60 秒が選ばれるし、どういう順番でも 60 分選ばれるというふうに菅間独立だというふうに考えております。一方で
0:59:09	57 ページの方で評価している津波の水位低下時間については、松波の、
0:59:16	水だけではなくって、どちらかという時間なので、その周期だとかというような要素も入って参ります。なので、
0:59:24	必ずしもそのライズタイムが短いほど、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:59:29	松井が大きくなるかと、時間が長くなるかという、逆のことも当然考えられまして、グラフ自体を見ていただきまして、60秒が一番大きいということではなくて、
0:59:41	何となく傾向としては真ん中が大きいのかなというようなところもありながらあまり感度もないと、いうこともあって、
0:59:50	同じくその時間に関係しそうな破壊伝播速度だとか、破壊開始点、主周期を少し変動させるような要素があるようなパラメーターとの
1:00:00	独立性というのが少し説明。
1:00:04	しっかりできないなというところもございましたので、こちらについては、やっぱりパラメーターが、影響が同程度であるということで順列がつけづらいということと、
1:00:14	それぞれが独立ではないと、関係が関係が明確でないというふうに上の箱の3、3ポツ目で書かさせていただきましたけれども、それぞれの影響が
1:00:26	それぞれに影響を与える可能性があるということで、こちらについては、順番を変えるということではなくて、すべてのマトリックスで計算をするというようなことを今回はさしていただいたと、ちょっと我々としてはこのような違いがあるというふうに考えております。
1:00:45	はい、ありがとうございますので、端的に言うと最後におっしゃっていた上昇水位の変化は、これはなんで補足説明資料の565ページの通り、もともと一般的にこうですというのが、
1:00:58	あるので因果関係ないのがはっきりしているんで、これはこれで切りましょうと、追加幸川時間なので、特にその時間に与える影響というものは、はっきりとしたものは既存でないんで、じゃあここは念のため評価しましょう。
1:01:12	あそこだけの違いで、あまりこの57と59そのものの傾向を比較して、これは幅広くやりました幅広くやりませんっていうのは、この2枚だけでは、
1:01:23	んではないわけですね。
1:01:32	そんな時は説明の時に、直接別にこの本体に入れるか補足交えながら説明していただくでも結構かとは思いますが。はい。
1:01:43	ですね、これ、前回の時にも、指摘というよりは資料の読み取り方として申し上げたような気もするんですけど、59ページの
1:01:55	58ページと59ページって概略パラメータスタディとしての、詳細パラスタの考察の部分って待ってええと、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:02:03	詳細パラスタの破壊伝播速度破壊開始点のところについては、かな一つポツが抜けるのかな、あるんですけど。
1:02:12	これライズタイムの考察はこれ取水槽の上昇側、
1:02:18	ここの変化で 0.2 とか 0.4、先ほど
1:02:21	破壊伝播速度破壊海成の方は 1 メートル未満の、その変動なので、有意な傾向は認められませんというふうに書いていて、他方で、
1:02:32	午睡了承取水槽の
1:02:35	ですね、ライズタイムのところは、これ 0.2 から 0.6 ぐらいしか差はないんですけど、これはそのライズタイムが短くなると津波が大きくなると書いてあって、
1:02:44	敷地前面の評価としてそれはそうなんですけど、
1:02:48	これわあ、
1:02:50	説明としては取水槽のライズタイム、もう降った時に取水槽の水位にどういう影響を与えますかっていうのを考察いただきたいんですけど。
1:03:00	これは取水槽の 0.2 から 0.6 メートルこの変動について、ライズタイムが短くなると津波の高さは大きくなるっていう、
1:03:08	そういう考察なんですかねこれ。
1:03:19	はい。中部電力の伊井です。59 ページに関するご質問ということです。はい。なので、59 ページと 58 ページで一応、基準断層モデルは違うんですけど、
1:03:31	59 ページは取水層の方の評価をしたためにですねそこに着目して、使う基準断層モデルの考察なので、
1:03:41	この真ん中のライズタイムの考察っていうのは、これは取水槽 12345、これの、
1:03:48	これについて、ライズタイムが短くなると津波高さ大きくなる傾向が見て取れますっていうことを書いているのか、敷地前面についての傾向を書いてしまっているのかどちらでしょうかってことなんですけど。
1:04:02	はい。中部電力の盛です。59 ページは、取水層に関して考察したものとして記載しております。おっしゃる通り、グロスとしては 50、
1:04:13	7 ページだとか、59 ページのところから、
1:04:18	どっちが大きいんだというようなことはございますけれども、
1:04:24	59 ページの敷地前面の津波水位への影響が、私も取水を通るので小さくなっては表れるもの、やはり、ややライズタイムが短くなる津波高が大きくなるという傾向自体は、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:04:38	同じようにあるということを、考察として記載させていただいているというものでございます。
1:04:46	はい。あくまで 59 ページのこの考察は、取水層に対する考察ですね。はい。
1:04:52	わかりました。
1:04:55	はい。
1:04:57	で、結果として、最後 60 ページ、細かい最後の数字ですけど、
1:05:05	ライズタイムの方が全員、
1:05:08	大体 90 の方に 90 ですかね 90 で、
1:05:12	今日、切り上げて 13.6 になりましたと。
1:05:16	ことで、最後細かい端数的なところで数字が、
1:05:20	変わりましたということですね。はい。
1:05:22	ここは一通りどういう検討してどういうすいません結果が出たのかっていうのは、
1:05:28	じゃあ私からは、一応コメントについては以上ですが、他で何か確認をしておきたい方おられますでしょうか。
1:05:57	はい。であればですね、コメントの 3 番の方に進みたいと思います。
1:06:05	62 ページは、これ、多分これまでの詳細パラスタのフローに、
1:06:13	ライズタイムの不確かさ破壊伝播速度がこの箱書きを、
1:06:16	書いただけなので、それはそれとしてですね。
1:06:23	という本体資料の方で、ライズタイムとか破壊伝播速度をどう設定するかっていうのは、これはマージン前回特にその何か議論になったものではないんでこれ本体資料の方には多分残してあるんだと思いますので、
1:06:36	なんで詳細パラスタをライズタイムで破壊伝播速度は繰り返しの順に、
1:06:41	パラスタをやった後の最後、数字をどういうふうと比較して敷地に影響が大きい波源を、絞り込んでいくかと、その手順を 63 ページの方から、
1:06:53	示していただいたと。
1:06:55	ちょっと前回の会合のときにもこういうやり方をしてるんでしょうかっていう話があったと思うんですけども、
1:07:04	まずダイイチ、まず小数点第 1 で比較しますこれは、
1:07:10	上昇側の敷地前面とかでもよくやっているのでここはわかります。で、(2) のフェーズに行くと、
1:07:19	敷地前面は評価地点が 1 ヶ所しかありませんので、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:07:26	1か0かしかないので、ここはあまり良いようにはならないんですけど、取水槽は4ヶ所で見てるので、
1:07:36	ここをどういうふうに所選んでいるかという、
1:07:42	やっぱり小数点第1で、真下福武田尾目を切り上げる形で出した小数点第1ですかねこの数字で、
1:07:52	ポイント制と言ってあるんですけど、
1:07:56	例えばケース、今だと右側に多分例を示してますけど、
1:08:00	4ヶ所小数点第一位で最大のものがあれば、これは、
1:08:07	今だと、右はこの①のケース1というのは4ポイント拡幅で、
1:08:12	ケース2の方は評価地点のDでこれは、
1:08:16	1点獲得するんですけども、4対1というなので、これはケース1の方がはっきり選びます。
1:08:23	で言われた場合ですかね、全ポイント獲得するそのケースがなくて、
1:08:28	割れた場合は、
1:08:31	両方ともその選びますと。
1:08:35	さらにその4点獲得したものが複数あった場合どうしますかここで初めて小数点ダイで比較をしますと、
1:08:42	そのやり方でやっていると。
1:08:46	手順としてはわかりましたと。
1:08:49	前回その部分が、話として、やり方はどうなんですか、はっきりあらかじめ示してくださいねっていうのあったんでそのやり方としてはこういう
1:09:00	やり方をしますと。
1:09:01	いうことで書いているのですが、(3)番のところは、まずその数字で選ぶんですけど、
1:09:11	異なる英語は形とかそういうものについて最後確認をして、
1:09:17	ていうのは、これは、
1:09:20	抽出したケースとその津波は形とって、これはすみませんどこまでの津波について、津波は形の形状が異なるだとか、最大値が発生する。
1:09:32	ところが異なりますっていうのは、
1:09:35	これでいうと、
1:09:37	すみません。
1:09:38	どこ、全部を比較するわけじゃないと思うんですけど。
1:09:41	(1)で、(1)すみませんね、(1)で、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:09:47	まずやりますと括弧、
1:09:53	これ、何と何、どのぐらいのものを比較するのかなんですけど (3) は読むと、(2) により選定した代表ケースと、
1:10:04	(1) で、
1:10:07	今日最後
1:10:09	何件ぐらいのな。
1:10:11	全部でダム先ほど 1000 幾つっていうふうにおっしゃったと思うんですけど、
1:10:15	それはKの比較とかそういう傾向ってというのは結局どのぐらいの数を抑えられるのかが、このフローだと、ぱっと見てわからないっていうのが、ゼンショー的なところなんですけど、数字の比較のやり方は、
1:10:26	今回わかりやすく、右側にイメージという形で書いていただいて、
1:10:31	わかった、理解したつもりなんですけど。
1:10:34	数字で比較した上で一応そのは形とかですね、最大値がどこで発生するのか、時間体がどこになるのかっていうのを比較しますっていうのは、どこまでの範囲のことをやるのかが、
1:10:45	すいませんちょっとこの1枚からですねやり方が見えなかったんで、そこをちょっと補足いただけますか。
1:10:53	はい。中部電力の盛です。63 ページのフローで言えば (1) では各表中に赤字一番大きいものを赤字でつけるというような作業をしてますので、
1:11:03	右側みたいなその赤字がついているケースすべてについて、は形を並べて今回比較しています。その中で、(2) で最後に選んだ、1 ケースもしくは複数ケースが、他の
1:11:19	赤字がついたケースと比べて、
1:11:22	ちょっと特殊なものがほかにはないかというような観点で比較したというものです。具体的には、コメント回答資料の方には 67 ページに、
1:11:34	基準断層モデル 3-3 の例ということでお示しさせていただいて、
1:11:41	はい、66 ページで
1:11:44	基準断層モデル 3-3 について、衛藤。
1:11:47	どれが赤字がつくかというものと、代表ケースとしては、今のフロー上でどういう、どれが選ばれるかというものを、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:11:57	赤い背景をつけた 2 ケースを選んでいるということをお示しさせていただいています。で、ここで赤字がついているケースというのが、最後に選んだ背景のケースと、それ以降にも、
1:12:10	123、C5 ケースですかね。
1:12:14	ありますので、合計 7 ケースについては形を、
1:12:20	お示ししているのが次のページになります。
1:12:25	こちらで、わかりました。
1:12:30	は、66 ページのところ
1:12:34	縦の列っていうんですかね、
1:12:37	縦の列、ただ 12 号取水槽だと赤がつくのってというのは 123IV。
1:12:43	1235 か。
1:12:46	ここなんだけれども、
1:12:48	まさ 12 号数イソダで 4 ヶ所あるところでどこか一つでも、
1:12:54	赤がついてる率が、
1:12:58	67 ページのところの比較に残して、そこは全部比較しましょうというということなんですかねこれ。
1:13:05	はい。ご理解の通りです。
1:13:09	前回の会合のところでも少しその縦の列でっていう話があって、
1:13:13	今回の
1:13:16	さっき戻りますけど、63 ページのところだと、
1:13:23	あまり縦のものの拾い出し、
1:13:25	というものまでは書いていなかったんだけれども、
1:13:30	その館野っていうのは、むしろこの 66 ページ 67 ページ、ここで縦で最大になってるものが全部ここで出てきますと、
1:13:41	この傾向としてどうなのかっていうのは比較していますと。
1:13:45	そういう話ですかねこれ。
1:13:54	はい。おっしゃる通りです。赤字がつく最大値、各各地点で最大値が 1、一つでもつくものについては 8K まで見たというような作業をしています。
1:14:09	中部電力アマノです 67。
1:14:12	何やってるかという、今、
1:14:17	どういう選定をするかということを、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:14:20	63でお示ししてるんですが、これって結局数字しか見てないもんですから、津波評価としてその数字が大きいけど、必ずしもそれっておなじは形かどうかっていうところまで見て代表選手が選べるかと。
1:14:34	いう観点で67で、縦軸で呼ばれたところは1回全部並べてみて、明確に例えば、は系が違うようなものであれば、
1:14:45	当然そこは選ぶべきであろうかと、いうことを考えて、こういうものをつけております結果すると、ほぼ同じような形で
1:14:57	数字の多寡が多少あるというところを確認できているので代表ケースとして選べるというふうに自分たちとしては評価をして
1:15:07	今回ご説明をさせていただいているという状況でございます。
1:15:13	はい。
1:15:14	取水、今回ここ本体だと、エースコメント回答の本体だと取水槽の上昇がを例示していて、
1:15:22	多分、
1:15:24	説明資料、
1:15:25	全体、全体の方だと他の8基準断層モデルについても書いてます。
1:15:32	で、
1:15:33	特にそうですね最大の時間っていうと、このぐらいの縮尺というか
1:15:39	なんていうか、
1:15:40	拡大の倍率だと、あんまりそこのピークの時間細かくまで見れませんが、おおよそは系としては同じだっていうのをここで説明すれば良いんだろうと。
1:15:51	そういうことですね。はい。
1:15:58	なるほど。
1:15:59	で、結果として、
1:16:02	プレート間の評価として69ページのところで、
1:16:07	前回から幾つか抜き出したものが、基準断層モデル3-3は、一応二つですかね、3-1もそうですが、二つずつ抜き出しましたと。
1:16:19	ということで、これ前回だとそのプレート間単独の評価としては最後これに絞り込みましたっていうのが、この後ついてたと思うんですけど、そこは、
1:16:32	今回はどうなったんですかね最終的、
1:16:40	前回だと敷地前面のは最後これプレート間単独としてはこれに絞ります。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:16:46	取水槽はこれに絞ります加工がこれに絞りますっていうのは、何か最後前前回だと1枚まとめた気がするんですけど、
1:16:55	今回今回は、69ページで最後止まってるような気がしていて、
1:17:03	そこは最後は、
1:17:06	あまりここで絞り込んでもう結局組み合わせのところで、組み合わせるのは何だって話になるので、
1:17:12	やっぱりどこまで絞り込む意味があるのかっていうのはあるんですけど、一応前回最後一応それぞれ、
1:17:18	敷地前面と、
1:17:20	止水層と下降側とそれぞれ1個ずつ絞ってたような気がするんですそこはどうなったんですかね。
1:17:28	はい。中部電力盛です。今回も63ページ、2、
1:17:34	フローの中で記載させていただいてます通り、大きくですね
1:17:41	基準断層モデルごとに、どれが影響が大きいのか。
1:17:45	63ページです。基準断層モデルごとに影響の大きい所の選定というところを今、見ていただいております。で、最後に基準断層モデルごとに大きいケースが決まった後に、全部の評価結果の中で1、
1:18:00	最も1T-Cへの影響が大きいケースはどれかというのを選定しているところについては、前回は今回も変わってございませんで、64ページの方に、選定方法の変更というところでもう記載させていただいておりますけども、最後、どういうふうに
1:18:19	一番大きいのを選ぶかというところについては、このツーステップでやっているところについては変更してございませんで、最後のまとめ、69ページのようなまとめのところで、
1:18:31	前回絞り込んで書くか、ここも別に絞り込まずに書くかという、違いぐらいなんですけども、特段我々として何か最後に絞った結果をお見せしたいということでもなかったの、69ページは、
1:18:46	詳細パラメータスタディの前結果載せた上で、どれが一番影響が大きいのかというものを、背景の色を変えて、お示ししているというものに変更してございます。
1:18:58	はい。
1:19:00	なので、すいません今回の69ページは前回の211ページのところで、
1:19:10	と、意味としては同じということですね。はい。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:19:19	前回のいえ、211 ページで、基準断層モデル 1 の 1 だけを残して他の行を削っちゃってますけど、
1:19:27	単純にそれは削ったセルを、
1:19:31	元に戻しましたというか、
1:19:33	別に説明したいことは前回の 111 ページと、今回の 69 ページと、
1:19:39	説明したことは変わりませんということですね。はい。
1:19:44	はい。詳細パラメータスタディの結果をそのままプレート間地震津波評価結果のところに載せるようにしたというような表、表記というか、ご説明として
1:19:55	変なふうにならないようにというか、そのまま載せるようにしたというような変更をさせていただきます。
1:20:04	はい。
1:20:05	わかりました。
1:20:07	で、コメントの 3 で、ほかに何か今確認しておきたい方はおられますか。
1:20:25	大丈夫そうかな。はい。
1:20:28	はわかりました。
1:20:30	ちょっとすいません今のコメント回答と少し関係関係がないんでちょっと補足説明資料のところで、方をちょっと教えて欲しくてですね、あまりハザード側の評価のところで、
1:20:43	この考え方がどうだからっていうところで、
1:20:47	評価の妥当性、審査変えるつもりないんですけど、ちょっと読み方で、補足説明資料の 32 ページですかね。
1:20:56	計算方法ってこれ大分前にご説明いただいたんですけど、
1:21:01	この漫画だとですね、取水塔から取水槽敷地内の取水槽までのものを縦で輪切りにしていて、この取水槽側のところ、
1:21:12	取水槽の
1:21:15	開口部っていうんですかね、そこからそのまま上に、
1:21:19	水井層の壁からですね上新居取水槽への溢水防
1:21:26	刺激で、何か 3 号 4 号が中で、5 号は 12 って書いていてですね。
1:21:31	これと、
1:21:34	12 ページの、
1:21:37	防止液位のですね。
1:21:39	構造っていうところの説明で、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:21:43	ここだとその取水槽の開口部のところから、これ、なので前回たまたまその視察のときにここを見せていただいたんで、
1:21:51	この取水槽の開口部ですよここからそのまま上に、
1:21:57	方式が立っているものと仮定して評価しているのか。
1:22:02	ここの図にある 12 ページの図にあるように、実際はその取水層のウエイトより、もう少し
1:22:08	実際の防止駅が当然離れたところにあるので、そこまでの容積を考えて、
1:22:14	評価しているのか。
1:22:17	どっちなのかなというのが、単に素朴な疑問としてあったので、ちょっと確認だけさせてもらえればと思うんですけど、設計の時どう評価するかっていうのは今ここで話聞く必要はなくて今現状のその、
1:22:28	取水槽の上昇がですね、この評価というのは、12 ページで言うと取水槽の、この青く塗ってある取水槽、まさにここからここ、この、ここに紡績があるものと仮定しているのか。
1:22:41	実際の防止駅の位置で、その何メートルというふうに評価してるのか、これはどちらですかね。
1:22:48	はい、中電力モリです。32 ページはちょっとポンチ絵なので、そのまま立ち上げておりますけども、この
1:22:55	32 ページの水槽自体も、石橋駅もそうですし、その下側の深さ方向にも面積が異なってきますので、シミュレーション上はそういうものを考慮して計算をしております。
1:23:08	で、実際にここ 1 次元モデルでやっていますので、面積が違うところごとに、モデルの容積を区切って、シミュレーションをして容積を考慮した津波の上昇水位を、
1:23:22	計算結果として出させていただきます。以上です。
1:23:25	はい。なんで実際の防止駅がある場所での高さですね。はい。
1:23:30	わかりました。
1:23:32	で、
1:23:33	あと敷地前面のところなんですけど、大分前にその評価ポイントの時にすでにお話聞いているような気もするんで、
1:23:42	ですけど、一応その浜岡の場合その防止へ来イトウモリ度まで含めると、長さ的に結構今だと、補足説明資料の 5 だ、5 ページだと、
1:23:53	総延長が 1.66 キロメートルあってと。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:23:57	あるんですけど、一応評価点としては評価点というか、この
1:24:03	高収益全体のところを一つの評価点として、
1:24:07	影響がある波源はどこでしょうかという評価をされていてですね。
1:24:12	これはなので、当然、
1:24:15	評価する津波として、22.7メートル一応今これがプレート間で最大とな ってますってことなんですけど、多分それぞれごとで、
1:24:26	最大になる地点っていうんですかね、それは多少ずれるじゃないです か。
1:24:30	ずれはするんですけども、一応これまでの先行プラントと同じよう に、どこかで最大になったものを、この全体に
1:24:40	防波壁全体に伸ばして、どこでも22.7メートルですっていう、そういう 評価で最後使おうとして、それか、既往のそういうやり方から、
1:24:52	変えようとしているのか甲斐何か焼きをと同じ既往のサイトと同じです っていうか、
1:24:58	あそこって今、今、設計の話で少し先なので、ここで何か宣言をしてく ださいっていうつもりはないんですけど、
1:25:06	その評価点っていうのは、一応これはどこかで22、数字が決まったらそ こは全体として22.7メートルで見ますっていう、そういう考えなんです かね。
1:25:21	中部電力浜野でございます。はいおっしゃる通りで今補足でいくと36 ページ。
1:25:27	ご覧いただけますでしょうか。
1:25:32	はい、見ております。もう。はい。以前からお示ししている通りで、防 波壁から先ほど堤防の様式値の訂正までの間の中で一番大きなものと、
1:25:46	というのが、今お示ししている22.7メートルということですので、当然そ れの高さをもって、ここの代表的な基準津波、
1:25:57	の高さとして設定をするという考えでおります。
1:26:05	はい、わかりました。
1:26:10	はい。
1:26:12	福井です。
1:26:13	すいません何か確認したかっただけなので、その他、
1:26:17	コメント123以外で何かこの際確認しておきたいというところがあれば、
1:26:24	他よろしいですか。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:26:28	大丈夫ですか。
1:26:31	はい。
1:26:32	そうすると、まだ少し時間がありそうなもう一つ資料の方いただいている、津波堆積物ですね。
1:26:45	こちらのコメント回答の図の説明の方をいただきたいと思います。
1:26:51	これも
1:26:54	コメント回答そのものと、コメント回答を踏まえると、津波堆積物調査の本体と補足説明書はこのようになりますという、一応、3セットをいただいていますので、
1:27:07	おそらくコメント回答。
1:27:09	の資料を中心にだと思えますけれども、ご説明の方をお願いします。
1:27:15	はい。中部電力浜野でございます。歴史記録及び津波堆積物に関する調査につきましては、第 1053 回、6 月 10 日に実施いただきました審査会合で、
1:27:28	いただきましたコメントについてコメント回答資料という形で、整理させていただいた上で鈴木さんからお話あった通りそれを織り込んだ本体資料と、
1:27:39	補足説明資料というのをご提出させていただいております。ご説明させていただきます五分程度になります。よろしく願いいたします。
1:27:48	中部電力の西村でございます。
1:27:51	浜岡原子力発電所、歴史記録及び津波堆積物に関する調査について、変更点を中心にご説明します。
1:27:59	なお、コメント回答資料にてコメント回答に伴う変更点を示し、本編資料及び補足説明資料は、それらを反映したものとなっております。
1:28:08	3 ページは、前回会合におけるコメント一覧表です。
1:28:13	評価方針の見直しについてコメントをいただいております。
1:28:17	敷地内のイベント堆積物の分布及び上限標高の評価結果について、
1:28:22	耐専 20 回、審査会合で評価したイベント堆積物の上流側において、追加でボーリング調査を行い、
1:28:28	それまでの調査によって確認されていた。
1:28:31	イベント堆積物と同程度以上の標高にジェイス提出堆積物が分布していること。
1:28:37	またその是正してきて、リリース堆積物中にイベント堆積物が認められないことを確認し、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:28:43	イベント堆積物の上限標高が約 8 メートルから変わらないことが確認できた。
1:28:48	一方で、敷地の詳細調査結果をもとに、海起源イベント堆積物でなければ、津波堆積物で、津波堆積物としないとする評価方針の変更については、
1:28:58	基準適合上の必要性を考慮し、評価方針を見直すこと。
1:29:03	になります。
1:29:05	5 ページをお願いします。
1:29:08	審査会合の経緯とコメント対応方針になります。
1:29:13	下の箱書きには、前々回の第 1020 回の審査会合から今回にかけて、当社の説明内容とそれに対するコメントを整理しております。
1:29:24	体制日 1020 回審査会合からの距離について説明します。
1:29:28	文字、主に赤字の内容になりますが、一番上の工期
1:29:33	耐専 20 回、会合では、コア観察結果に基づき、津波起因の可能性が否定的なイベント堆積物を評価し、
1:29:40	敷地のイベント堆積物の堆積当時の標高を約 0 から 8 メートルと評価しておりました。
1:29:47	それに対し、敷地のイベント堆積物が分布する上限標高について、物証に基づき示すようにコメントをいただきましたので、
1:29:54	そのコメント対応として、第 1053 回会合では、
1:29:59	敷地で確認したイベント堆積物の上流側等で、追加ボーリング調査の実施するとともに、
1:30:06	詳細な調査分析を実施し、平面的な分布や、供給元に関する分析結果に基づき、
1:30:13	津波起因の可能性がある、海起源のイベント堆積物を津波堆積物として評価することにより、
1:30:19	敷地における津波堆積物の上限標高を評価することとして、説明しておりました。
1:30:25	それに対し前回、敷地内のイベント堆積物の分布及び上限評価の評価結果については、追加のボーリング調査結果により、イベント堆積物の上限標高が約 8 メートルから変わらないことが確認され、
1:30:38	確認できたとされました。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:30:40	その一方で、敷地の詳細調査結果をもとに、海イベント堆積物でなければ、津波堆積物としないとする評価方針の変更については、基準適合上の必要性を考慮し、
1:30:50	評価方針を見直すことというコメントをいただきました。
1:30:55	その対応方針を契約に示しております。
1:30:59	第 1053 回審査会合では、
1:31:04	耐専 20 回審査会合で評価したイベント堆積物の上流側において、追加でボーリング調査を行い、それまでの調査によって確認されていたイベント堆積物と、頭程度以上の標高に、
1:31:15	提出堆積物が分布していること。
1:31:17	あとその中にイベント堆積物が認められないことを確認して、上限標高が 8 メートルから変わらないことを確認いただきました。
1:31:26	一方で、敷地の詳細調査をもとに、イベント堆積物を津波堆積物とする評価方針の変更については、
1:31:33	基準適合上の必要性を政権とした結果、
1:31:37	最終的に歴史記録及び津波堆積物調査から推定される演習など沿岸域の津波高、約 5 から 10 メートルに影響を与えないため、
1:31:46	評価方針の変更を取り止めることとし、
1:31:49	第 1020 回審査会合で説明した評価方針の通り、
1:31:53	津波起因の可能性を否定できないイベント堆積物を保守的に津波堆積物と評価することとしました。
1:32:00	上記に伴い、第 1053 回審査会合で追加した 1.3. 2、津波堆積物に関する敷地の詳細調査の位置付けを変更し、
1:32:10	津波堆積物評価には考慮しないことといたしました。
1:32:14	6 ページに、第 1053 回審査会合からの津波堆積物評価の変更概要を示しております。
1:32:22	下の表には、左の項目ですが、評価方針、津波堆積物の堆積当時の標高、
1:32:29	敷地周辺の津波堆積物調査結果のまとめ資料構成について、
1:32:34	前回審査会合と今回の比較を整理しております。
1:32:39	先ほどご説明した通り、今回評価方針の変更を取り上げることから、詳細調査を津波堆積物評価にうまく考慮しないこととしたため、イベント堆積物を保守的に津波堆積物を評価し、
1:32:51	その標高は約 0 から 8 メートルと評価することとしました。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:32:56	まとめについては、見直し後の評価結果を踏まえても、他機関による演習など沿岸域の津波堆積物調査と同様、
1:33:03	巨大な津波を示す津波堆積物が確認されなかったとする結論に変更はございません。
1:33:10	資料構成につきましては表の通り、緑で示す 1.3. 二章、今回位置付けを変更して、参考として補足説明資料のほうにつけてございます。
1:33:21	7 ページから 11 ページには、今説明した評価方針評価結果まとめについて、前回と今回の差分がわかるようにそれぞれ前後比較をお示ししております。
1:33:32	当初の説明は以上です。
1:33:40	はい、ありがとうございます。何で今回のヒアリングで先ほど冒頭申し上げたようにコメント回答そのものと、
1:33:50	それを踏まえると資料全体としてどうなりますかっていうのでお示し、そういう形で組み替えていただいて、非常にわかりやすくなったかなと思うんですけど。
1:33:58	すいません
1:34:00	この 6 月 10 日の会合、これは介護の後に特に会合での指摘、
1:34:07	の確認の面談っていうのは確かやっていなかったと記憶していて、あまりそのコメントを、対応方針とか前回のコメントとかっていうのをあんまりヒアリングの場で、
1:34:18	しっかり見る機会がなかったので、ちょっと今更で恐縮なんですけども、5 ページ目のところで、
1:34:26	ちょっと前回の 6 月 10 日、
1:34:30	の介護、先行 13 回における説明ここはいいでしょうと 6 月 10 日のコメントの前半部分ですね、上限標高が始めるわからないところが確認できましたっていう、
1:34:43	ここもいいんですけど、
1:34:45	一方でのところ確か前回の会合だと、その基準適合上の
1:34:53	必要性は持ち帰って検討。
1:34:57	しなさい、検討して持ち帰って検討しますっていうところではなくて、基準適合上必ずしも必要。
1:35:07	ではないのですが、
1:35:08	より一層の説明書の向上の観点で、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:35:12	この部分どういうふうに整理するのは、そこは資料上どうするのか持ち帰りますっていう、そういう終わり方、まとめ方だったような記憶があつてですね。
1:35:23	何か今回だと、その基準適合上の必要性は、その 1053 回の後社内で検討しまして、
1:35:30	で、
1:35:32	次の会合で、基準的向上の必要性について、
1:35:37	社内で検討した結果をご説明したいのですっていう、何か流れのように見えるんですけど。
1:35:42	ちょっとそこわあ、私の記憶違いなのかどうなのかっていうのをまず、
1:35:48	そちらのお考えを確認したいんですけど、すみませんあんまりこの、
1:35:52	コメン等の細かいづらのところまで詰めるつもりがなかったので、
1:35:57	前回のヒアリングのときに、あまり詰めてみてなかったんですけど、
1:36:05	中部電力天野でございます。鈴木さんおっしゃる通りですいません確かにラップアップ等で、この最後の表現というところを確認したわけではございませんで、1053 回の審査会合、
1:36:19	最後のクロージングで、名倉調整官から、おまとめいただいたのが一方での前までで、後の部分は、当社に対してご質問が、
1:36:31	ありまして、
1:36:35	私の方から口頭で今回は、この詳細調査というのが、基準適合上必要ではないと我々評価していますのでこちらは取り下げますというお話をさせていただいた。
1:36:49	と思っておりますで、それを資料上どういうふうに織り込むかというところを持ち帰らせていただいたという認識でおりますのでちょっとこの最後の末尾のところを、
1:37:02	その正しくと当日のやりとりに合わせた形に修正をさせていただきたいと思えます。
1:37:12	はい。おそらく、津波堆積物の方の議題と、あと敷地内の追加調査の状況ですかねその議題とそれぞれで、
1:37:22	そ議論のまとめというのをやっているはずで、その中で上限ですからイベント堆積物が敷地のどここの高さまであるかっていう話の後に、
1:37:35	きちんと
1:37:38	さらにそこを、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:37:39	海海陸をきっちり分けましょうかというところ基準適合上は必ず必要なんですが、そうではないですねっていう、その議論の部分のまとめも、
1:37:51	同時に最後、本日のこの議題の議論のまとめっていう形でしていたような気がするのでちょっと改めてあの議事録をもう一度見ていただいでですね。
1:38:01	前回の会議の時点でどこまで、そのあと、今後次の会合までどうでっていうのは、ちょっと時系列
1:38:09	ずれないようにとか誤解しないようにちょっと細かいところですけども、ちょっともう一度ご確認いただいでよろしいですかね。
1:38:17	はい。
1:38:18	最終的な仕上がりとして何かということではないんですけど、
1:38:23	はい。最後、中部電力天野でございます。議事録の最後のクロージングでいくと、この第 1053 回で、我々、我々が
1:38:34	提示した内容につきましてどのような位置付けで言及するかしないのかも含めて、検討するようにご指示いただいておりますので、その旨でここ記載させていただいて、
1:38:46	それに対して我々としては、今回、詳細調査というところは取り下げた上で、従来評価に思って当社の津波堆積物調査の評価に変えるという黄色い箱のところを持っていくような形で、
1:39:02	最後、記載のほうを改めさせていただきたいと思います。
1:39:16	はいなのでコメント回答の資料でいうと 5 ページ目の前回のコメント、
1:39:25	の箱書きと、コメント対応方針の
1:39:29	部分で、ちょっとこの辺の記載をより正確に書いていただくと。
1:39:33	必要があれば後段のページ、106 ページのところでも、6 ページはないかな。
1:39:40	ところでも同じような記載があるのかな、ちょっとそこはすみません、全体的に見てもらえればと思いますけど。
1:39:51	今度今回端的に前回の会合と 2 回目の会合に方針を戻しますという、そういう説明に端的にはなるのですけれども、
1:40:03	へえ。
1:40:04	にしようかな。
1:40:07	構成としては前々回に戻ります。なので記載としても、ちょっと大分空いてしまいましたけれどもヒアリングのところでも、
1:40:16	とにかくイベント堆積物というものをこれは津波、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:40:19	によるものだと、みなすというところを、わかるように書いたということで、あそこも結構かなと思いますと。
1:40:26	て、
1:40:29	でですね、ここでみようかという、
1:40:33	例えば7ページですかねこれは前回のものですけど、これの四角の2個目の、
1:40:40	2行目ですかね詳細な
1:40:43	調査分析カッコC T画像とかでC C N - S分析等とかっていうふうにあって、
1:40:49	当然その、
1:40:50	前は詳細な調査分析っていうところに区分していましたが、
1:40:57	こういったものの中には、その海起源か陸期限かっていうところまで踏み込む必要は、基準適合上なからうというところであるんですけども、
1:41:09	そのイベント堆積物であると、いうことを、
1:41:13	コア観察とかですね、そういう気を前々回から説明してるもの以上に、C Tとかですねこういうものも付け加えると、よりイベント堆積物であるというところの説明が、
1:41:28	補強に使えるものもあるんじゃないでしょうか。
1:41:31	というような話も、ヒアリングで、前回かな、前々回ですからむしろ、
1:41:37	ところでそういう話もあったと思うんですけど、これ最終的には、残したものとしては、
1:41:45	コア観察で、一応
1:41:50	年代のところが多量ずれているので、この放射線炭素年代の分析でこの部分は、9はイベント堆積物かどうかの説明のところに残しましょうと。
1:42:03	ということで、その心としては、
1:42:06	どういうことなんですかね結局C Tとか、帯磁率とか、ちょっとC S Oとあってあるんですけど、特にその平面的な分布っていうふうに区分してる方なんですけど。
1:42:17	これをイベント堆積物かどうかの説明のところに使おうとすると、
1:42:23	何か補強にならないのか補強にはなるけれども何か、
1:42:28	その
1:42:29	別の問題が生じるのかという意味では、
1:42:33	ちょっとそこら辺が、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:42:35	最後よくわからなくて、
1:42:37	心としては結局C Tの話とかを出すと、海陸の話にどんどんどんどん入って行ってしまって、
1:42:45	話がややこしくなるので、イベントがどうかのところだけできちっと切るように、
1:42:51	コア観察中心の従前前々回のやり方で、
1:42:55	書きました資料としてまとめましたと、そういう超すことなんですかねちょっとそこら辺、
1:43:01	補足してもらえますか。
1:43:05	はい。中部電力の間野でございます。これ前回の、
1:43:09	ヒアリング等でもお話をさせていただいたんですけど、1053回の審査会合の中でやっぱり詳細調査自体は、新たな議論になるということでこれは取り下げさせていただきますというお話をさせていただきました。
1:43:25	今鈴木さんからお話あった通りでC T画像とか当然、コア観察の中で、
1:43:33	使えるとは思うものの、これだけまた持っていくと資料を絶対作り変えることになりますので、先般の審査会合で、
1:43:45	お示ししたものとまた違ったものになって再度、より詳細な審査と、というようなことになるのではないかというふうに、
1:43:57	考えましてあくまでも、追加でやったカーボンフォーティーンってのもともとやっていますのでそこにデータとしては追加させていただいたものの、C T等については、
1:44:09	参考の中に落としているということを、選定させていただいております。
1:44:19	わかりましたなるほど。なんで、どれがイベント堆積物であるかどうかの評価に使えるのかっていうのは当然前回その部分は議論してないので、その入口のところですから、
1:44:31	改めてそのなんかC T画像観察がこれがいいんでしょうか悪いんですかみたいな、その議論、
1:44:37	に入ってしまうと、そういうことですね。はい。募集シートはわかりました。
1:44:43	あとですねこれ会合の
1:44:48	説明としてはおそらく全体、この中1枚でのご説明だとは思いますが、
1:44:57	どうですかねこ0。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:45:00	どう、同じ、おそらく今、どちらもスプレーとかの方も、本日1回目のヒアリングなので、
1:45:08	ちょっと同じタイミングで極力、似たような話なので、全国同じタイミングで会合にかけようという、
1:45:17	上げるってということになるとは思うんですけど、
1:45:20	他方で一応最後この津波堆積物調査の結論、
1:45:25	と、これももう中身としては前回の7月15日のプレート間の方での審査会合でも、資料としてはもう載っていて、何かそこに、
1:45:36	コメントをしているものではないんですけども、
1:45:41	シミュレーションの結果、
1:45:42	当時の敷地は、正確にはわからない敷地の形状はわからないけれども、下の浜岡の敷地の付近で8メートルぐらい他よりも倍ぐらいの高さってというのは、
1:45:54	当時の敷地の形状、
1:45:57	によっては十分あり得るといって、
1:46:01	というシミュレーションの結果をプレート間の評価の方で出していて、
1:46:07	どこかで最終的にお互いが整合してるんですっていう。
1:46:12	説明は、
1:46:14	していただいた方がいいんじゃないかなと思うんですけど。
1:46:20	会も同じ日であればこのコメント回答としてはこの11枚、例えばこの11枚でコメント回答して、当然プレート間の方は別資料として、
1:46:31	あるのでそのどこかに、シミュレーションの結果、
1:46:36	もう、
1:46:37	持っているので二つの資料を横に並べて組み合わせれば、最後整合してありますっていう説明はできるのかもしれないんですけど、
1:46:45	一応このコメント回答の中で完結して、
1:46:49	前回の会合でもあれプレート間の方で評価しているものと、
1:46:56	詳細調査に入ってしまうと何かそごがあるんじゃないかみたいですね、話にもなったので、
1:47:02	まとめて最後整合してるっていうところも、このコメント回答の中で完結
1:47:07	させてしまった方がいいんじゃないかなと思うんですが、
1:47:13	例えばこの12ページ以降に参考でいやこれはもう説明はしてあるんですけども、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:47:19	シミュレーションの結果と、最後ありますよう、
1:47:23	きちんと整合した説明ができ、できてますよというのは、
1:47:27	判子で構わないんで、つけていただいた方がいいんじゃないかなと思うんですが、その辺はいかがですか。
1:47:34	はい。中部電力浜野でございます。承知いたしました。今回プレート間地震の補足資料の方にもつけさせていただいてますので、同じような形で、この堆積物の方にも、
1:47:46	解析結果をつけさせていただいて整合してございますというご説明もあわせてさせていただければと思います。
1:47:56	はい。それで多分、
1:47:59	前回、少しちょっとコミュニケーションがとかああいう話もありましたけどもそこら辺が最後、
1:48:05	解消されて、結論としてどうどう、どうつく津波でセキュリティを評価するのかっていうところが、最後わかりやすくなるんじゃないかなと思いますので、
1:48:16	あとどのぐらい抜粋してつけるかはありますけど、簡単にでも結構ですので、コメント回答の中に、
1:48:23	参考で張りつけておいていただくといいんじゃないかなと思いました。 はい。
1:48:27	もしくはもしかしたら津波堆積物の調査の、この本体ですかね、この
1:48:32	60 ページぐらいある中に入っているのかもしれないので、そことを、
1:48:38	そこを示しながらでもいいと思いますけど。
1:48:41	なので説明の仕方の工夫なだけなので、
1:48:46	はい。中部電力の盛です。今日のプレート間地震の補足の説明資料の方に今資料入っております、衛藤。
1:48:55	補足の 708 ページから、
1:49:00	前回コメント回答、説明させていただいた資料入っておりますで、今のご説明を限りだとちょっとこれを全部載せるか、例えば 716 ページのような、
1:49:15	検討の結果の部分を絵を載せながら少し概要を載せるようなページ 1 枚と、あと、717 ページあたりで、津波評価結果。
1:49:27	遠州灘沿岸域全体の比較、2 枚ぐらいを参考で載せていただくのがいいのか。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:49:33	ちょっとどちらがいいかなということを、今お話が考えておるんですけども、パッケージとして載せた方が、
1:49:40	どちらでも構いませんけど、パッケージをした方がよさそうか、
1:49:44	2枚ぐらいで結論という形で参考情報として載せたほうがいいのかどうか。
1:49:48	奥津ありますでしょうか。
1:49:51	改めてその部分を議論するものでもないので、
1:49:57	簡単なものを、
1:49:59	野瀬M a a S 一々2枚2枚7日の1枚とかを載せておいて、ちなみに詳細プレート間の補足説明資料の方にありますけどっていう
1:50:08	場合の対応関係さえはっきりしてればいいかなと思いますけども、超すプレート間の補足説明資料の方にコメント回答資料が喉のリンクを変えてしまうと、
1:50:21	何とか後々、
1:50:22	消したり消せなかったりが困るので、ただ今回きちんとコメント回答と、
1:50:27	コメント回答を踏まえると全体版こうですっていう資料構成で組んでいただいているので、コメント回答資料の方2 その同じ日の会合とかでの別の分厚い資料の方との対応関係リンクを、
1:50:40	入る分には、別にコメント回答がこの場限りのものになるので、やはりここ後々、
1:50:48	リンクを書きしておくともた消すのが面倒くさいっていうことにはならないと思いますので、
1:50:53	そんな詳細な説明はいらないので、両者の検討は最後結論として合ってますっていうところだけ見せてもらえばいいと思いますけどね。
1:51:03	はい。中部電力の盛です。ありがとうございます。イメージ理解いたしました。対応させていただきます。
1:51:12	はい。
1:51:13	とか津波堆積物の方で何か、
1:51:18	規制庁タニですけど、ちょっとさっき鈴木さんも言ったんですけども6ページの
1:51:23	ちょっと気になったのが詳細調査のところを今回は津波堆積物評価には考慮しないとはっきり書いてるんで、先ほど天野さんの説明でも

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:51:35	取り下げると言いましたと前回の会合でっていう、それをわかるのはわかるんですけども、例えばこれぎゃん、本当に全くこれは参考にしてないのかというと、
1:51:48	そうじゃなくて詳細調査をやったことによって、
1:51:52	例えばこれまでのイベント堆積物が、
1:51:56	増えたりもしてないとかですね。
1:51:58	ちゃんとこれが今までの評価がおかしくないんだよっていう確認はちゃんとしてるんじゃないんかと思うんですよ。データを全部全、全部が全部、
1:52:09	何も考えずに捨ててるとか言うわけじゃないんだと思うんですけどやっぱりこれはこの全く考慮しないっていうような書き方になるんでしょうか。
1:52:26	はい。中部電力の盛です。
1:52:29	審査会合での議論を踏まえると、衛藤。
1:52:35	詳細調査として海起源の堆積物を評価することについて、まだこれを評価に取り込むと議論になると、
1:52:44	海起源大切認定の方法がこれでいいのか、どういうふうな評価方法ですねC S Sとかコア観察も含めてかと思えますけれども、
1:52:55	評価方法について議論になるということだったので、詳細調査自体は、津波堆積物の評価の中に入れていない方がいいのかなというふうに思っております。で、
1:53:05	となると、評価について評価の中には入れない。
1:53:12	ということが我々としては、いいのかなというふうに考えておりますけれども、例えば我々の
1:53:19	参考ではありますけれども
1:53:22	なお書きみたいな形で、我々としてこういうふうな調査を試みた結果として、
1:53:30	矛盾がないというようなことも確認していますとかっていうようなことぐらいであればことで、審査会合の結果を踏まえて書くことできるのかなというふうに、今思っております。
1:53:44	はい。規制庁の谷井です。これあれなんですよその詳細調査をもってして、つ今までイベント堆積物って評価していたこれ自体を、
1:53:55	この津波堆積物に絞ってということにするっていうことに対しては新しく議論が生まれるということではあるんですけど何か、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:54:03	うん。
1:54:05	やったことに対してそれが
1:54:08	うん。全く0じゃない確認はしてるんだったら確認してるっていうような書きの方がいいのかなと。
1:54:15	実際そうであるんだっただけですね、そういうことで
1:54:20	記載の仕方おまかせしますのでよろしくお願いします。
1:54:26	はい。中部電力の盛です。詳細調査自体は、どちらかというところ、Cイベント堆積物とその延長を対象にしてそれを絞り込んだりとかっていうような、どこまで
1:54:39	堆積物が連続してるかっていう観点で調査してますのでイベント堆積物のその評価を補強するというよりも、より詳細にどこまで堆積物が連続したかっていう評価をして、
1:54:52	いますので、イベント堆積物かどうかっていうところに、なかなかフォーカスされて今分析をしておりますので衛藤。
1:55:01	ちょっとなかなかそのとり一部でも取り込むということが、
1:55:06	となると、大分資料を変更する可能性が出てくるのかなというふうにちょっとこれ、感触としては思っております。
1:55:14	すいません言い方は悪いかもしれないですけど全く、私の方も言いたいのとは全くその結果をもって無視してるっていうわけじゃないって、やってきたことも一応わかっているつもりなんですけれども、
1:55:26	それによって何か、これまでの、何て言うんですかね、イベント堆積物、
1:55:32	という評価が何か変わるようなもんじゃなかったっていうことなのかなというふうに思う。言い方悪いですね、例えば新しいですね、
1:55:42	新しくこうイベント堆積物が見つかったりとかそういうこともなかったのかなっていうようなことはあるのかと思いますので、
1:55:50	いや、私はこれ全く、ゼロにしますよっていうわけじゃないんですよねっていうのを確認したかっただけです。
1:56:02	中部電力の久松です。
1:56:04	前回の審査会合の議論を踏まえますと、やっぱりそこで我々としてはデータなり事実関係として、
1:56:13	今までの津波堆積物といいますか評価を超えるものではないという確認はできたと思っておる、おります。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:56:22	それを、新たなデータに基づいてそういった確認ができましたとか、 いうことを記載するとそのデータに基づき、
1:56:33	やっぱり戻って、それが妥当性確認したという行為が正しいのか正しくないのかっていうのがまた審査になるということ、
1:56:42	懸念しましてというか、前の議論を踏まえるとそういうところまで踏み 込まない方がいいんじゃないかということで、
1:56:50	また最終的な評価も変わらないので、そこは切り離していいんじゃない かということだったかと思っているんですけどそこで、事実関係として でも、確認をしているということ、
1:57:04	書いてしまうと、またそこに立ち戻るんじゃないかということ、をちょっ と懸念しておるんですけど。
1:57:10	から最終評価のことを肝。
1:57:13	が、に影響するかどうかっていうことで考えると、今のもともとのイベ ント堆積物の評価で、
1:57:23	周辺の、
1:57:24	結果とあわせて、問題はないということを確認しているということで、 今の範囲で、資料は作らせていただきたいかなと思っておりますが、 いかがでしょうか。お任せします私なんか言いたかったのはこの詳細調 査の中に何か事業者の
1:57:41	不利になるような情報はなかったっていうようなことも残しておいた方 がいいんじゃないですかっていうようなこと、言いたかっただけなん で、このままでいいんだったらこのままで、
1:57:51	はい。言ったらいいと思います。
1:57:54	すいません規制庁鈴木ですけど、
1:57:58	どこに行かんかというところでも多分意味が違うのかもしれないん ですけど、
1:58:03	コメント回答の本体ですとか、津波堆積物のイベント堆積物の評価のと ころに、ちなみに詳細調査をやりましたけれども、そこで新たなイベ ント堆積物を示唆する結果はありませんでしたというふうにと書くと、
1:58:17	本当なのかみたいな話で多分おっしゃるような、というようなですね。
1:58:21	本当にそうなのかみたいな話には、
1:58:23	なるというのはあそこはある程度理解していて、他方で今多分補足説明 資料の7ですかね、皆さんところにこの参考という形で一応フルセット 詳細調査の結果って多分残しているんで、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:58:37	ここに、
1:58:38	ここにちなみにこの詳細調査そのものは載せ基準適合の説明上使ってないけれども一応御社としては残しておきたいということで今補足説明。
1:58:48	資料7 参考という形で書いてるかと思うんですけど、この補足説明資料7の中に、
1:58:54	ですね、一応詳細調査これは一応、審査で議論審査会合で議論する対象としては、一応俎上には上げません。
1:59:04	一応資料として補足する資料の方に、御社としては多分残しておきたいから書いてるんだと思うんですけど、そこに、
1:59:11	ちなみに、イベント堆積物、
1:59:14	であるという評価を何か変えるような結果はもちろん出てませんし、一応御社としては、より海起源のものを絞り込めたということで、多分書いてるんだと思うんで、
1:59:24	補足資料の補足説明資料の7番のところに書く分には、
1:59:29	別にそれが何か、そもそも補足説明資料なところっていうのは、基準適合上の説明として御社として使っていませんという、
1:59:37	いう説明なので、
1:59:39	そこに書く分には別にどっちでもいいのかなとは思うんですけど、最後の最後、いいましたけど、どうするかおまかせしますかと、いうことですはい。
1:59:49	はい。中部電力天野でございます。ありがとうございます。
1:59:54	ぜひその補足説明資料に、
1:59:57	当社として、
1:59:59	今までのイベント堆積物の評価を乱すようなものではなかったという趣旨のことを記載させていただきたいと思います。
2:00:13	他何かありますか。
2:00:19	規制庁のニシキです。ちょっと一つだけ、何か読みづらいかんと思ってちょっと検討いただきたいのがありまして、
2:00:28	R02の方のコメント回答じゃなくて本編資料offの方になるんですけども、その27ページ。
2:00:36	のイベント堆積物に関する評価結果っていうことで、今回、全部敷地の西側東側のところを供給元、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:00:46	地層温泉含むということで耳っていうふうに全部されてるんで、して、 して、その記号の凡例のところ、海は海のところ見ると、円礫等 から海起源と判断されるって書いて括弧書きで、
2:01:01	下記 2 に当てはまらず否定できないものを含むと書いてるんですけども これ何かぱっと見たときに、
2:01:08	何かちょっとわかりにくいなと思ってその二つへの平面分布なりのとこ ろだと。
2:01:13	何とかをしないものもありと表記って書いてるので何かそういうような 書き方が、何かちょっと読みやすいのが一瞬だとかこれなんか円 礫。
2:01:23	何か植木元、
2:01:25	何か、
2:01:26	じゃない、ないければいいものなんだ河川。
2:01:32	赤線ではないと判断できないものは、
2:01:35	海と判断するということで書いてるんだと思うんですなんかその辺ちょ っとちゅのぱっと見てわかりづらかったので、ちょっとその辺の何か聞 く書きぶりだけなんですけどちょっと、
2:01:46	表現をちょっと。
2:01:47	見直してもらった方が、ぱん見た目わかりやすいかなと思うんですけ どいかがでしょうか。
2:01:55	中部電力西村でございます。はい。ご提案いただいたように、
2:02:00	括弧書きの方は下記に当てはまらず、否定できないものも海と表記とか そういった形でわかりやすいようにいたします。
2:02:09	規制庁ニシキです。はい。層相何日何が否定できないのかもちょっとい まいちよくわかんない。
2:02:15	ぱっと見てわからなかったんでここをぱっと見てわかるような表記の方 が良いと思いますので
2:02:20	よろしくお願いいたします。
2:02:23	承知いたしました。
2:02:28	多分何、何を否定できないものか、わかるように書いた方がいいと思 いますよ。
2:02:35	下記に当てはまらず、否定できないって多分何を否定できなかったと海 起源を否定できないということだと思うんですけど。はい。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:02:44	どうせ文字が三行ぐらいになるのであれば、わかりやすく書いておけばいいと思いますので、
2:02:53	はい、承知いたしました。
2:02:57	あと他、何か、本間補足の方とかは、これまでもヒアリングである程度は見ていて、多少組み替えたということではありますけど、
2:03:07	前回ご説明いただいているところから、大きくは変わってないと思いますので、
2:03:14	よろしいですか。
2:03:17	はい。ではこちらの方から、ヒアリングで確認したい点は以上になります。
2:03:25	中部電力の方から何かございますでしょうか。
2:03:35	はい中部電力浜野でございます。ありがとうございます。
2:03:40	今日プレート間地震の津波評価の、特にご確認いただいた中で資料修正すべき点っていうところも、
2:03:50	なかったんですが、このまま審査会合に諮っていただけるという理解でよろしいでしょうか。
2:03:56	えっとですねプレート間の方は、ちょっとすいません一通り評価絞込み方式とかですね特にコメント新居さんのところで、今日どういうものなのかっていうのは、一応お聞きして改めてその上で、
2:04:11	資料の方を、
2:04:13	見させてもらってですね従って資料として同じでいいと思うんですけど。
2:04:19	ちょっとこのサット審査会合にかけれるかという、今日のご説明聞いて、
2:04:27	もう一度資料をですね結構分厚いので読み直して確認しておきたい点があるかもしれませんので、
2:04:35	ちょっとこのままサクッと審査会合かなというイメージではないんですけど、ちょっとこの場で、むしろパッとコメントしきれなようなものがあるので、今日主には、考え方をしっかりとお聞かせいただいたという、ちょっとそういうつもりなんですけど。
2:04:54	多分ですねこれで講演と資本とするとあと、
2:04:58	もっと1時間とかですね、かかるかもしれませんので、ちょっと一旦、説明としてはなのでちょっと月井どこかで、あまり置き換えて分けずにヒアリングは設定できればと思いますけど。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:05:11	盛阿南で改めて説明いただくというよりは、この今日のご説明聞いて確認したい点とかです時間がかかりそうなものは、
2:05:20	ちょっとどこかで
2:05:22	もう一度ヒアリングを入れて、そのあとで会合ということで考えてますけども、
2:05:31	はい、承知いたしました。
2:05:36	はい。
2:05:37	ちょっとすみませんヒアリングの時なんかはまた、ちょっと我々もちょっと今、他の予定がどこに入るかっていうのは、はっきりと手元にないので、
2:05:48	はい。またヒアリングの日程なんかはこちらの方からこちらの方からご相談させていただきます。
2:05:53	他、
2:05:55	何かありますでしょうか。
2:05:59	大丈夫ですかそっちで中部電力の真岡、今野ほかはよろしいですか。
2:06:05	中部電力天野でございます。はいこちらとしては特にございません。
2:06:13	すみません一応
2:06:16	津波堆積物の方はあまり大きくはないですけれども少し資料の手直しがあるので、ちょっとやつがねそれをもらってからヒアリングした方がよろしいですかそうすると、
2:06:26	そんなに作業時間かからないような気もしますが、1週間ぐらいめどで、資料の状況をお聞きして、そこからヒアリング入れるっていうのも一つありますけど。
2:06:39	はい。中部電力天野でございます承知いたしました。
2:06:46	はい、わかりました。
2:06:57	はい。わかりました。ちょっとさっきも言いましたけど、かなりプレート間の方ですねボリュームがあるので、
2:07:03	今、今日のご説明聞いて、きちんと確認したい点は次漏れなく確認したいので、
2:07:10	少し日程についてはまた考えてお互い考えたいと思います。
2:07:15	ということで、吹かなければヒアリングの方は、こちらで終了したいと思います。
2:07:23	はい。ありがとうございました。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:07:26	はい。それでは浜岡のプレート間の津波評価と津波堆積物のコメント回答このヒアリングについて終了します。どうもお疲れ様でした。
2:07:37	ありがとうございました。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。